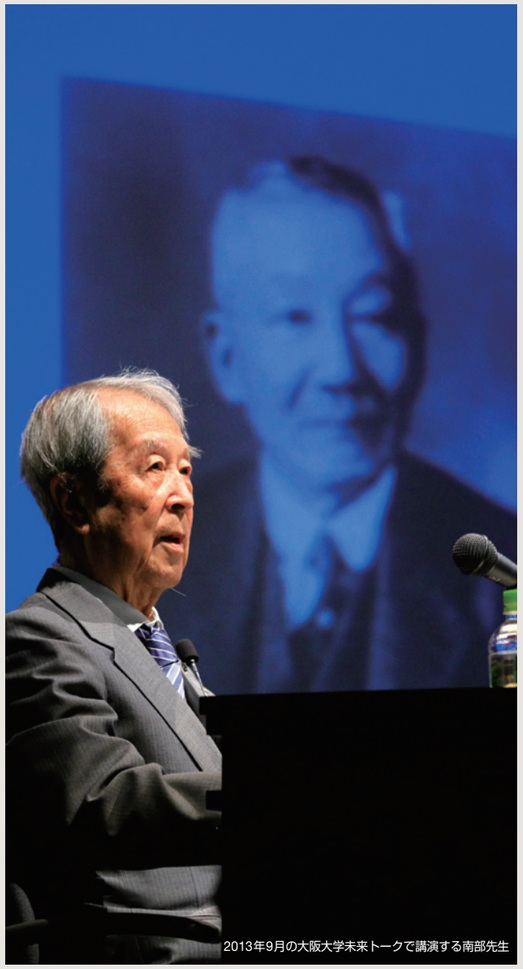
南部陽一郎 大阪大学特別栄誉教授ご逝去

7月5日(日)、急性心筋梗塞のためご逝去されました。享年94歳。謹んで哀悼の意を表します。


2013年9月の大阪大学未来トークで講演する南部先生

南部陽一郎先生は、戦後の世界の物理学の発展を牽引し、自然観を大きく変えた大物理学者です。独創的な発想と深い理解は、いつもその時の先端研究者の10年先を先取りするものでした。ノーベル物理学賞の受賞理由となった素粒子の世界における「自発的対称性の破れ」の発見と定式化のみならず、クォークのカラー自由度の発見、強い相互作用理論、ひも理論(弦理論)の構築など、素粒子物理学の基礎を築き、現在でもその研究は発展し続けています。そして、日本人をはじめ、多くの次世代のリーダーとなる物理学者を育てあげられました。

大阪大学には、1993年以降、頻繁に外国人客員研究員として理学研究科の教育研究に携わり、その功績により96年12月、第1号の大阪大学名誉博士の称号を贈呈されました。2006年4月からは大阪大学招へい教授として、理学部・理学研究科の学生、研究員、教員に対し教育研究を通して多大な影響を与え続けられました。08年にはノーベル物理学賞を受賞され、11年4月から、大阪大学特別栄誉教授として、理学研究科における教育研究にとどまらず、全学的な講演などにも尽力されました。

理学研究科物理学専攻(H722号室)に研究室を持ち、日頃から素粒子物理学をはじめとする理論物理学全般に渡る研究を展開されました。研究室の学生やスタッフとも気さくに議論され、研究者としての規範を示し続けられるとともに、素粒子論研究室でのセミナー、理学部学生に対する講義・講演、大阪大学未来トークなどを通して、研究者として、人として、学生に希望と勇気を与え続けられました。

13年から理学研究科では、毎月1回、自然科学のフロンティアを究める「南部コロキウム」を開催してきました。16年度に竣工予定の理学研究科新棟(教育研究交流棟)の会議場は、「南部陽一郎ホール」と命名される予定です。

学生に囲まれる南部先生▶

◉主な受賞

- ハイネマン賞 …… 1970
- オッペンハイマー賞…… 1977
- 文化勲章 …… 1978
- アメリカ国家科学賞 … 1982
- マックス・プランク・メダル … 1985
- ディラック・メダル …… 1986
- サクライ賞 …… 1994
- ウルフ賞 …… 1994
- ボゴリューボフ賞…… 2003
- フランクリン・メダル … 2005
- ノーベル物理学賞 …… 2008

司馬遼太郎記念学術講演会を開催しました

7月11日(土)、大阪外国語学校(現：大阪大学外国語学部)の卒業生の司馬遼太郎さんの業績をしのび、日本人と日本の文化について考える「大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会」を、大阪市北区のサンケイホールブリーゼで開催しました。

大阪大学招へい教授で長崎大学のハルメン・ボイケルス教授が特別スピーチを行い、蘭学の歴史と適塾について語りました。次いで、法政大学の田中優子総長と、フジテレビ特任顧問の山内昌之氏が「幕末への道～世界史のうねりと日本の知性」をテーマに講演と対談を行いました。

田中優子氏と山内昌之氏による対談▶

◉バックナンバーは、大阪大学ホームページ www.osaka-u.ac.jp からご覧いただけます。

●大阪大学ニューズレターへのご意見、お問い合わせがありましたら、Eメールで受け付けております。E-mail:newsletter@ml.office.osaka-u.ac.jp

表紙写真 大阪大学交響楽団(7月18日アルカイックホールで撮影。18ページに記事掲載)

—大阪大学— NewsLetter
No.69 2015・9 Autumn
[大阪大学ニューズレター]
●発行月平成27年9月 ●編集大阪大学広報・社学連携オフィス広報課 ●発行大阪大学広報・社学連携オフィス広報課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1 TEL 06-6877-5111 ●編集協力毎日新聞総合事業局
大阪大学

—大阪大学— NewsLetter
www.osaka-u.ac.jp
大阪大学
OSAKA UNIVERSITY
Quarterly Magazine
2015: Autumn
NO.69

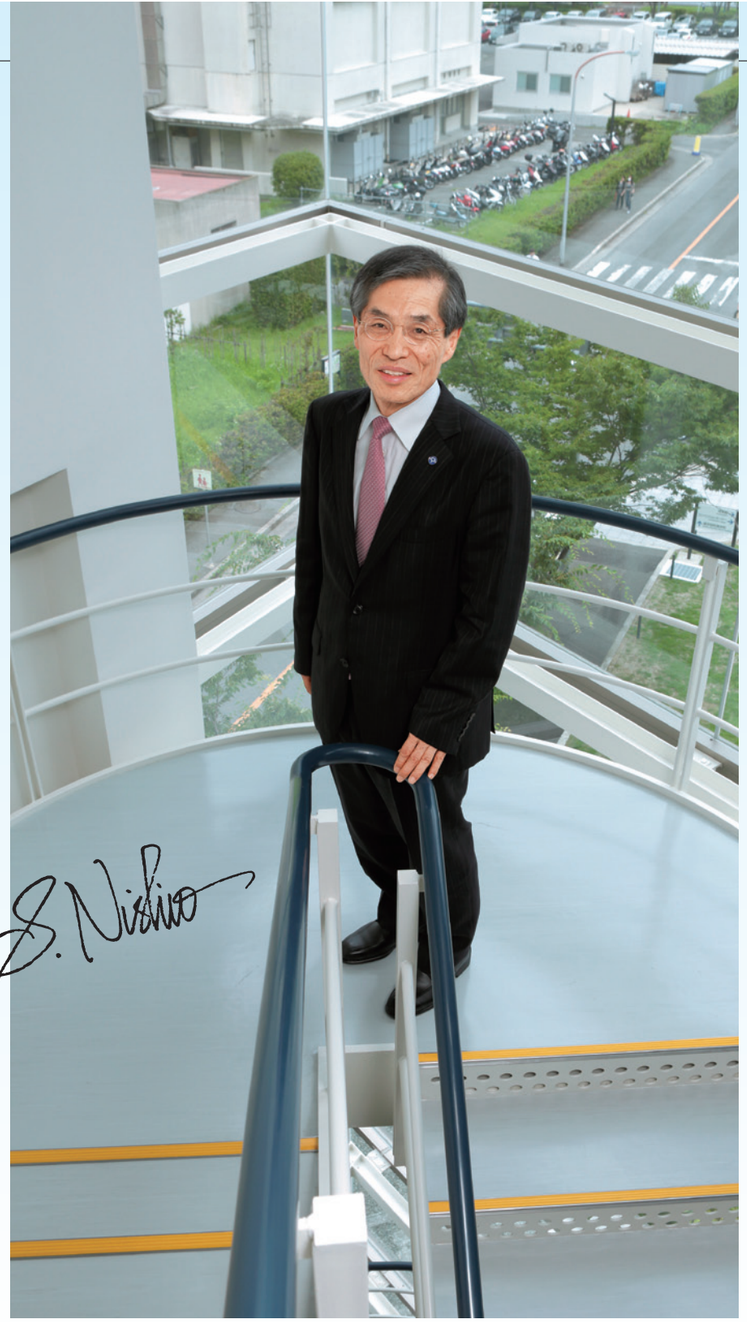
◉新総長インタビュー――1
第18代総長 西尾章治郎
「知の協奏と共創」で
イノベーションを

新総長インタビュー
Interview of the new president

第18代総長 西尾章治郎

「知の協奏と共創」でイノベーションを

◉「対話」を重視　大阪大学の多様な知を世界に発信



大阪大学の第18代総長に、理事・副学長をはじめ、情報科学研究科長、サイバーメディアセンター長を務めた西尾章治郎教授が就任した。任期は2015年8月26日から6年間。世界で情報技術が急速に発展するなか、ビッグデータ時代を先導するデータ工学の研究者。西尾新総長は、学内外に広く意見を求め、合意形成を図りつつ、総長としての強力なリーダーシップのもとで確固たる大阪大学の基盤を築き、世界に誇れる人材を育成すると語る。

（※2015年7月8日情報科学研究科でインタビュー）

■総長就任について

――総長就任についてどう受け止められていますか。

私の総長の任期は、第3期中間目標期間とも重なり、大阪大学にとっての非常に重要な6年間を預かると考えています。また、今回の任期の最終年となる2021年は大阪大学創立90周年、大阪外国語大学創立100周年にあたります。そのため、いかに大阪大学を進化・発展させて次世代へバトンタッチするかが課題だと思っています。

――大学運営で大切にしたいことは。

対話と合意形成です。一人ひとりの教職員、学生は非常に高い潜在能力を持っています。皆さんが大阪大学のために頑張ろうという意志を持ってもらえれば、この大学は絶対強くなると確信しています。そのために一番大事なことは、きっちりと語りかけ、話を聴くということです。つまり一緒にやっていきましょうと共鳴することの重要性です。

大学運営は、トップダウンとボトムアップの両面がないとうまくいきません。そのあり方は企業経営とも違うところです。総長の強いリーダーシップは、教職員一人ひとりを大事にしながら合意形成を図っていくことと矛盾せず、それが実現してこそ発揮されるものです。

■人文学・社会科学と自然科学のクロス

――スローガンはありますか。

「知の協奏と共創」です。今後、人文学・社会科学は、日本の持続的なイノベーションを起こすうえでより重要になると思います。今までイノベーションというのは、自然科学の研究成果から起きると言われてきました。そして、人文学・社会科学の役割は、先端的な自然科学の学術の知を現在及び将来の人類の福祉に寄与する水路に導く方向舵としての役割を担ってきました。ところが、今後、社会が複雑で混沌とする時代においては、持続的なイノベーションは、人文・社会・自然の全ての領域において創出される多種多様な知に耕された社会的土壌を基盤にして初めて可能になると考えます。この事実に留意すれば、人文学・社会科学と自然科学が総体としてあいまって熟成し続けることの重要性は明らかです。その観点からも、大阪大学の多様な「知」が連携し合うこと（協奏）、また、そのような「知」を構成員、関係者の皆さまと共に創出していくこと（共創）が重要だと考えます。

■真髄を究める基礎研究でも産学連携を

――研究をするうえで財政基盤の確保はどのように。

今後は、基礎的な研究に関しても産学連携を積極的に進めます。産学連携というと、どうしても応用研究になりがちですが、基礎的な研究においても重要だと考えます。また、文部科学省も同様の方向性を打ち出しています。真髄を究める基礎研究を続けていけば自然と応用研究に結びつくという信念を持っていますので、財政基盤の確立の観点からもこのような方向性を重要視し、実現したいと考えています。

――産学連携で大切にすべきことは。

産学連携のプロセスに大学院生を巻き込んで人材育成を図ることです。大学の恒久的な使命は卓越した人材を育てることですから。

■「グローカル」な資質を持った人材の育成

――どんな学生を育てていきますか。

グローバルとローカルを合わせた「グローカル」という言葉があります。例えば、今日は日本の山あいの集落で住民に溶け込んで調査、研究をしているかと思えば、次の日はニューヨークの国際会議で学会発表するといった、地域に根差した視点を持ちつつ世界も視野に入れて活躍する学生、つまり、「地域に生き世界に伸びる」という大阪大学のモットーをまさしく実践するような学生の育成ですね。単にグローバルだけというのは、上滑りの感じがします。大事なのは、「教養」「国際性」「デザイン力」「コミュニケーション力」を兼ね備えた人材を育成することです。

――大学ランキングについては。

ランキングを全く無視することはできないと思います。ランキングありきで大阪大学の研究分野を左右するというのではなく、大事にしたいのは、大阪大学のこれまで取り組んできた優れた研究が結果としてランキングに結びつくようにすることです。むしろ大学が持つ総合的なパワーに関する情報を積極的に的確に発信し、国内外のいろいろな大学や機関に知ってもらい、正しく評価されることが重要だと思っています。

「教育の阪大」「研究の阪大」の特色をいかに出していくか。「阪大らしさ」を大切にし、「構成員と共にある阪大」にしたい。

■昔はスキー選手。今も登山を楽しむ

――ご趣味は。

小中学生の頃はスポーツ三昧で、以前、中学の同窓会に出席した折に、大学の教員をしていると言ったら、みんな驚いていました。てっきりスポーツ選手になると思っていたらしいです（笑）。春夏は野球、秋は陸上競技、そして冬はスキーという具合です。中学生の時は、岐阜県のスキー大会（スラローム）で優勝したこともありますよ。登山も好きで今でも時々登っています。やり始めたらとことんやるというスポーツスピリットで研究も取り組んできたのかもしれません。

■学生たちとも気軽に対話

――最後に学生へのメッセージをお願いします。

学生時代は、世間から見れば無駄なことをやっているように思われることでも一生懸命に打ち込める時です。もちろん勉学には励んでほしいですけれど、自分の好きなことに熱中して突き詰めてほしいですね。私は総長室にとどまるのではなく、キャンパスのあちらこちら、ふらっと学食などに出没して、学生たちといろいろな話をしてみようと思っています。これからの6年間、粉骨砕身の覚悟で全身全霊の力を込めて頑張ります。

■西尾章治郎（にしお しょうじろう）
1951年生まれ。75年京都大学工学部卒業、80年同大学院工学研究科博士後期課程修了（工学博士）。京都大学工学部助手、カナダ・ウォータールー大学客員研究助教授、大阪大学基礎工学部助教授、情報処理教育センター助教授を経て、92年同工学部教授。その後、大阪大学サイバーメディアセンター長（初代）、同大学院情報科学研究科教授（現在に至る）、同研究科長、大阪大学総長補佐、2007年～2011年同理事・副学長。13年同サイバーメディアセンター長。専門はデータ工学。

【政府関係委員】文部科学省科学官、同科学技術・学術審議会委員、同文化審議会臨時委員、同大学設置・学校法人審議会専門委員、日本学術会議会員（情報学委員長）、内閣府総合科学技術会議専門委員、日本学術振興会産学協力総合研究連絡会議委員、科学技術振興機構研究主監（PD）、日本ユネスコ国内委員会委員をはじめ多くの委員を歴任。

【受賞・表彰】紫綬褒章、文部科学大臣賞、電子情報通信学会業績賞・功績賞、情報処理学会功績賞、日本データベース学会功労賞、立石賞功績賞、船井情報科学振興賞をはじめ多数の賞を受賞。IEEEをはじめ日本工学会、情報処理学会、電子情報通信学会のフェローの称号を授与される。

新理事・副学長紹介

◉理事・副学長

三成 賢次 (Kenji Mitsunari)
◎ 総合計画、評価、広報担当

昭和55年 3月　大阪大学法学部卒業
57年 3月　同大学院法学研究科公法学専攻前期課程修了
60年 3月　同大学院法学研究科公法学専攻後期課程修得退学
60年 4月　同助手法学部
62年 4月　同助教授法学部
平成 9年 7月　同教授法学部
11年 1月　博士(法学)(大阪大学)
11年 4月　大阪大学教授大学院法学研究科
14年 4月　同評議員(平成16年3月まで)
16年 4月　同大学院法学研究科長・法学部長(平成20年3月まで)
19年 8月　同総長補佐(平成21年8月まで)
20年 5月　同教授大学院法学研究科附属法政実務連携センター
23年 4月　同コミュニケーションデザイン・センター長(平成27年8月まで)
24年 4月　同理事補佐(平成27年8月まで)
27年 8月　同理事・副学長

[専門分野] 基礎法学、西洋法制史、比較法史

◉理事・副学長

小林 傳司 (Tadashi Kobayashi)
◎ 教育担当

昭和53年 3月　京都大学理学部卒業
55年 3月　東京大学大学院理学系研究科科学史・科学基礎論専攻修士課程修了
58年 3月　同大学院理学系研究科科学史・科学基礎論専攻博士課程修得退学
58年 4月　法政大学兼任講師(非常勤)(昭和61年3月まで)
59年 4月　青山学院大学非常勤講師(昭和62年3月まで)
62年 4月　福岡教育大学講師教育学部
平成 1年 4月　同助教授教育学部
2年 4月　南山大学文学部助教授
11年 4月　同文学部教授
12年 4月　同人文学部教授
15年 4月　同社会倫理研究所所長(平成17年3月まで)
17年 4月　大阪大学教授コミュニケーションデザイン・センター
27年 8月　同理事・副学長

[専門分野] 科学哲学、科学技術社会論

◉理事・副学長

八木 康史 (Yasushi Yagi)
◎ 研究、リスク管理担当

昭和58年 3月　大阪大学基礎工学部制御工学科卒業
60年 3月　同大学院基礎工学研究科物理系専攻前期課程修了
60年 4月　三菱電機㈱ 応用機器研究所研究員
平成 2年10月　大阪大学助手基礎工学部
3年 3月　工学博士(大阪大学)
5年 4月　大阪大学講師基礎工学部
8年 4月　同助教授基礎工学部
9年 4月　同助教授大学院基礎工学研究科
15年 4月　同教授産業科学研究所
24年 4月　同産業科学研究所長(平成27年8月まで)
25年 4月　同経営協議会委員(平成27年8月まで)
27年 8月　同理事・副学長

[専門分野] ロボット工学、コンピュータビジョン

◉理事・副学長

小川 哲生 (Tetsuo Ogawa)
◎ 財務、情報担当

昭和60年 3月　東京大学工学部物理工学科卒業
62年 3月　同大学院工学系研究科物理工学専攻修士課程修了
63年 9月　同大学院工学系研究科物理工学専攻第1種博士課程退学
63年10月　同助手工学部
平成 2年 4月　日本電信電話株式会社基礎研究所研究主任
2年12月　工学博士(東京大学)
5年10月　大阪市立大学工学部助教授
8年 8月　東北大学助教授大学院理学研究科
12年 5月　大阪大学教授大学院理学研究科
24年 4月　同理事補佐(平成27年8月まで)
26年 4月　同教育研究評議会評議員(平成27年8月まで)
同大学院理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター長(平成27年8月まで)
27年 8月　同理事・副学長

[専門分野] 理論物理学(物性物理学、量子光学、非平衡統計力学)

◉理事・副学長

星野 俊也 (Toshiya Hoshino)
◎ グローバル連携担当

昭和59年 3月　上智大学外国語学部英語学科卒業
61年 3月　東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専攻修士課程修了
63年 4月　外務省在アメリカ合衆国日本国大使館専門調査員(平成3年3月まで)
平成 3年 5月　財団法人日本国際問題研究所研究員
4年 3月　東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専攻博士課程修得退学
7年 4月　財団法人日本国際問題研究所主任研究員
10年 4月　大阪大学助教授大学院国際公共政策研究科
15年 3月　博士(国際公共政策)(大阪大学)
15年 7月　大阪大学教授大学院国際公共政策研究科
18年 8月　国際連合日本政府代表部公使参事官
20年 8月　大阪大学教授大学院国際公共政策研究科
23年 4月　同大学院国際公共政策研究科長(平成26年3月まで)
23年 8月　同総長補佐(平成26年3月まで)
26年 4月　同副学長(海外拠点、国際問題担当)(平成27年8月まで)
27年 8月　同理事・副学長

[専門分野] 国際公共政策学、未来共生学、国連研究

◉理事・副学長

吉川 秀樹 (Hideki Yoshikawa)
◎ 産学連携、病院運営担当

昭和54年 3月　大阪大学医学部医学科卒業
58年 3月　同大学院医学研究科博士課程修了医学博士(大阪大学)
58年 4月　大阪大学医学部研究生
59年 5月　同医学部附属病院医員
59年 9月　米国カンサス大学研究員
60年 9月　大阪大学医学部研究生
61年 1月　同助手医学部
平成 5年 7月　同講師医学部
7年 4月　大阪府立成人病センター病院整形外科部長
10年 9月　大阪大学講師医学部
11年 4月　同講師大学院医学系研究科
11年11月　同教授大学院医学系研究科
24年 4月　同医学部附属病院長(平成26年3月まで)
同総長補佐(平成25年8月まで)
25年 8月　同副学長(病院運営担当)(平成26年3月まで)
27年 8月　同理事・副学長

[専門分野] 骨・軟骨再生医療、骨軟部腫瘍外科

◉理事・副学長

工藤 眞由美 (Mayumi Kudo)
◎ 男女共同参画、社学連携担当

昭和47年 3月　津田塾大学学芸学部英文学科卒業
49年 3月　東京大学大学院人文科学研究科言語学専門課程修士課程修了
54年 3月　同大学院人文科学研究科言語学専門課程第1種博士課程単位修得退学
61年 6月　横浜国立大学講師教育学部
63年 4月　同助教授教育学部
平成 9年10月　同助教授教育人間科学部
10年 4月　大阪大学教授文学部
11年 2月　博士(文学)(大阪大学)
11年 4月　大阪大学教授大学院文学研究科
19年 8月　同大学教育実践センター長(平成24年3月まで)
27年 3月　大阪大学を定年退職
27年 4月　大阪大学特任教授(常勤)男女共同参画推進オフィス
27年 8月　同理事・副学長

[専門分野] 日本語学

◉理事

大木 高仁 (Takahito Ooki)
◎ 人事労務、事務組織担当

昭和58年 4月　文部省入省
平成 9年 7月　同教育助成局教職員課教員研修企画官
11年 4月　同学術国際局企画官
12年 4月　同大臣官房企画官
13年 7月　文化庁文化財部記念物課長
15年 7月　文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課長
16年 8月　警察庁生活安全局少年課長
18年 7月　文部科学省初等中等教育局教職員課長
21年 7月　文化庁長官官房政策課長
24年 1月　同文化部長
25年 4月　文部科学省大臣官房審議官
26年 2月　大阪大学理事

世界に開かれた大学・世界に貢献する大学

世界適塾 学問による「調和ある多様性の創造」

7月14日に大阪大学での最終講義を行った平野俊夫総長。免疫学者として多くの世界的研究業績を挙げてきた情熱を、大阪大学の教育研究・大学改革に注ぎ込んできた4年間。第17代総長としての取り組みを振り返りながら、大阪大学の未来への思いなどを聞いた。

（※2015年7月6日総長室でインタビュー）

総長室の壁には
クラフォード賞の賞状が飾られている

■平野俊夫（ひらの としお）
1947年生まれ。72年大阪大学医学部卒業。73年より76年までNIH留学。大阪府立羽曳野病院内科を経て、熊本大学助教授、大阪大学助教授、同教授、生命機能研究科長を歴任。08年4月から11年3月まで同大学院医学系研究科長・医学部長。11年8月26日、第17代大阪大学総長に就任（任期：15年8月25日まで）。05年～06年日本免疫学会会長。日本学術会議会員。総合科学技術・イノベーション会議議員。サンド免疫学賞、クラフォード賞、日本国際賞などを受賞。06年紫綬褒章受章。専門は免疫学。免疫機能における情報伝達において重要な働きをするインターロイキン6（IL-6）を発見し、そのメカニズムと自己免疫疾患との関連性を解明。

■一日24時間、夢の中でも大阪大学のことを考えていた

――どのような4年間だったと感じておられますか。

2011年は東日本大震災に加えて、私が研究者として「日本国際賞」を受賞した年でもあり、強く記憶に残っています。「22世紀に輝く大学」創りをしようと決意して就任しましたが、中身の非常に濃い4年間でした。「今を必死に生きる」というのが私の信条ですから、最初から強くアクセルを踏みこんで全力投球で突っ走り、おおげさに聞こえるかもしれませんが、一日24時間、夢の中でも大阪大学のことを考えていました。まわりの人たちは大変だったろうと思いますが（笑）。

■強い危機感から生まれた「世界適塾」構想

――数多くの取り組みの中で、一番大きなことは何でしょうか。

「世界適塾」構想というコンセプトを創れたことですね。総長として4年間、大阪大学のことを考え続けて、たどり着いた答えだと思っています。今、グローバル化が盛んに言われていますが、人類の歴史はグローバル化の歴史でもあります。グローバル化は20万年前にアフリカ大陸で生まれたホモ・サピエンスが世界各地に移動していった時代に始まり、やがて様々な人種や文明が誕生し、言語・文化・宗教などの多様性が出現します。人類は多様性により進歩してきましたが、多様性ゆえに対立や戦争も経験してきました。21世紀に入り情報通信や交通網などの発達に伴って地球が極端に狭くなり多様性が凝縮され、各地で対立や紛争が多発しています。21世紀は「多様性の爆発の世紀」だと考えています。人類が経験したことのない新たな局面に突入しつつあります。私は、21世紀における大学の大きな役割は、学問による「調和ある多様性の創造」であると思います。それが「世界適塾」の理念です。

――どのような経緯で「世界適塾」の構想が生まれてきたのでしょうか。

大阪大学の原点である適塾は学問を介して日本中から人が集まり、明治を切り開く人材を多く輩出しました。大学は学問の府であり、学問は芸術・スポーツなどと同様、人類の共通言語です。言葉や文化が異なっていても、学問により人が交流することで、異文化を理解し尊重し合い、多様性の持つネガティブな側面を克服できるのではないかと思います。世界に開かれ、世界に貢献する大学であることが、21世紀における大阪大学の大きな役割だと考えています。

――構想実現のため多くの新しいことを打ち出されました。

4年間で本当に多くのことを実行してきたと思っています。大阪大学が国立大学で初めて試みた、あるいは他大学が大阪大学をお手本にしたという新しい事業もたくさんあります。「未来戦略機構」は、人類社会が直面している地球規模の課題に、縦割りの学問領域を超えた新たな取り組みでチャレンジしようというもの。そして未来戦略の一環である「国際共同研究促進プログラム」は、海外の優秀で著名な研究者と時間や場所を共有しながら信頼関係を築き、共同研究を進めることで、国際ネットワークを築いていこうという事業。「世界適塾」構想のコンセプトとも強く結びつきます。「世界適塾」の理念を達成するためには、大阪大学のブランドを高め、世界中から優秀な学生や教員が集まることが大事。それにより教育・研究の中身がレベルアップし、さらに世界から人が集まるというポジティブな好循環が生まれることを強く期待しています。

■「夢は叶えるためにある」

――社会に開かれ、貢献するには大学はどうあるべきでしょうか。

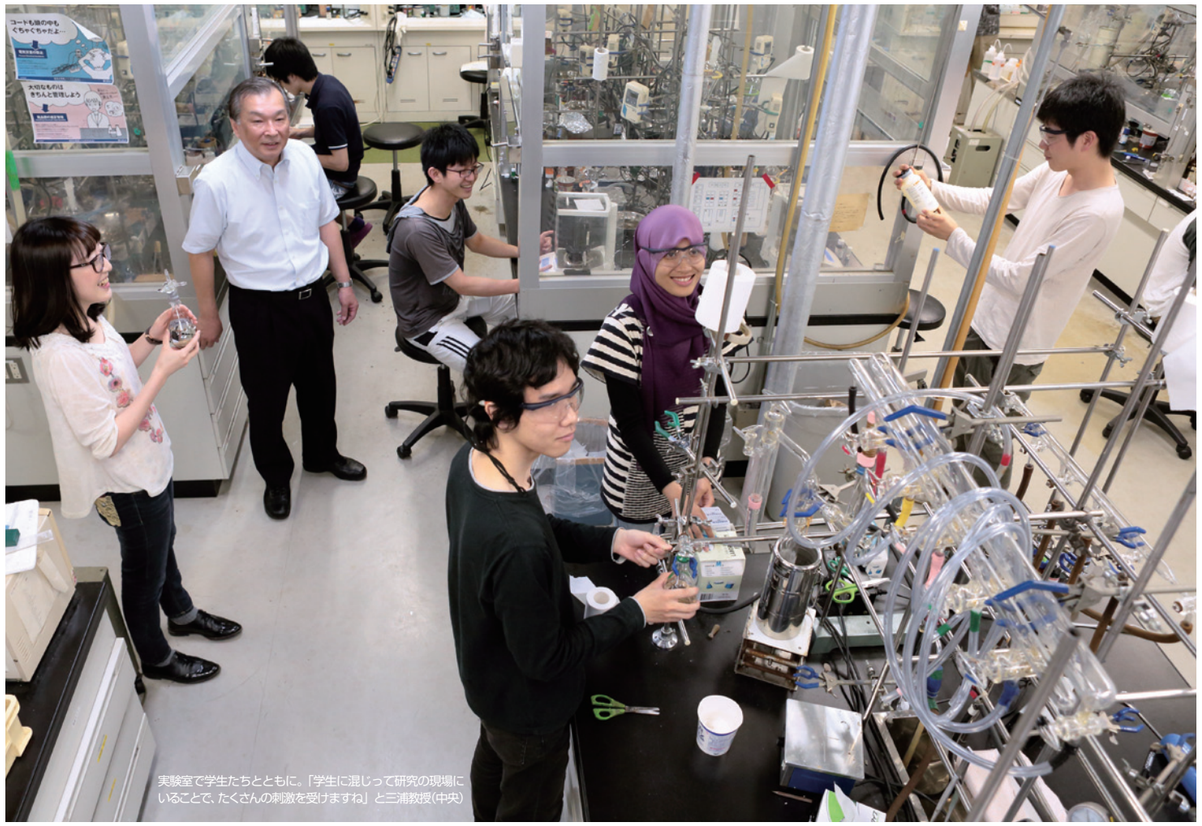
大学は「物事の本質を見極める学問」をする場所だと考えています。知識や技術、語学力も大事ですが、社会の問題・課題の核心を見抜けるような能力を備えた人を育て、社会に送り出すことが最も大事。それにより革新的なイノベーションも起こります。もうひとつ重要なのは、自身のアイデンティティーです。私はよく学生に「己（おのれ）を知り、己を磨く」ということを言っています。日本人であり、大阪大学の学生・卒業生であるといったアイデンティティーを大事にして、そのうえで自分を磨くこと。自分に誇りが持てないと異なる国や他人を理解できず、相手を尊敬できません。まず自分という個を確立していくこと、そしてどのような分野においても、自分の活躍する場は世界だという気持ちを持ち、前向きに懸命に生き切ってほしいと思います。

――最後に、大阪大学への思いをお聞かせください。

1966年に大阪大学に入学してから49年間、学生として研究者として、第17代総長として、大阪大学は私の人生の全てだったといえます。総長に就任してからは、大学とは何かを考え続けたことで、私自身も成長したように思います。2015年8月25日をもって大阪大学からは完全に「卒業」となりますが、今後も、大阪大学のみならず、日本の国立大学、そして世界の高等教育をよくしていくというスタンスでいたいと思います。「世界適塾」の理念を達成するためにも「世界トップ10」の研究型総合大学をめざし、多くの学生・教職員が、「己を知り、己を磨き、世界に羽ばたく」という認識を共有し頑張っていってほしいですね。私の好きな言葉、「夢は叶えるためにある」。結果はどうあれ、夢に向かって一生懸命に目の前の山を一つひとつ登りきる努力をする、そのプロセスが人生を豊かに、そして大学をよくしてくれるのです。

2015年7月14日の最終講義で▶

【最終講義動画】
https://youtu.be/uIe3SuJwjUA



実験室で学生たちとともに。「学生に混じって研究の現場にいることで、たくさんの刺激を受けますね」と三浦教授(中央)

◉ クロスカップリング反応をもっと先へ

「合成化学の革新」に挑む

● 工学研究科・応用化学専攻 教授
三浦 雅博── *Masahiro Miura*

医薬品、有機電子材料などの効率的な合成に欠かせないクロスカップリング反応*は、現在では幅広い産業分野で必要不可欠な技術となっている。日本が得意とする技術分野であり、2010年に日本人2人を含む3人がこの領域でノーベル化学賞を受賞したことは周知のこと。三浦雅博特別教授のグループは、クロスカップリング反応のフロンティアを切り開く研究を推進。2012年には先端研究領域をリードする研究者に贈られるトムソン・ロイターの「リサーチフロントアワード」を受賞し、2014年に大阪大学特別教授となった。

＊**クロスカップリング反応**：異なる構造を持つ二つの分子を結合させて一つの分子にする化学反応

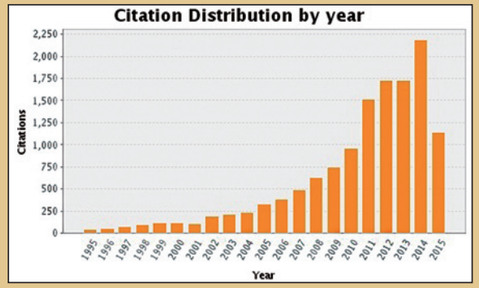
「大阪大学特別教授」の盾(左)とトムソン・ロイターの「リサーチフロントアワード」の賞状(右)

■環境調和型のクロスカップリング反応へ

クロスカップリング反応を環境調和型の工業技術として発展・普及させるには、高効率化、廃棄物の低減、反応工程の単純化などの課題が残されている。三浦特別教授の研究室では、ハロゲン化あるいは金属化という段階を踏まずに工程を進められる新たな方法を開発した。多くの段階を介さずに反応を進められるようになったことで、工程が短縮でき、標的となる分子を一挙に合成できる。しかも、従来は構築が困難とされていた分子群の合成も可能となった。

さらに、「クロスカップリングには高価な金属触媒が必須」というこれまでの常識を打ち破り、安価な銅を触媒に用いる反応の研究にも取り組んできた。この反応では副生成物が水のみとなるため、経済、環境にも大きなインパクトを与える研究として、内外で高く評価されている。

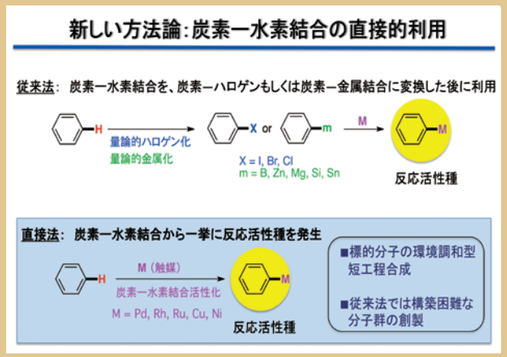
三浦教授グループの一連の環境調和型クロスカップリングについての研究論文は、過去5年間で8,000回以上引用、今年上半期だけでも1,000回以上の論文引用が確認され、世界からの注目度は上昇の一途だ。2014年からは、民間企業との共同研究講座を大阪大学工学研究科に設置。さらに革新的かつ有用な反応の開発をめざす取り組みを続けている。



増加を続ける三浦教授グループのクロスカップリング関連の論文引用数。三浦教授グループの研究は、国内外の研究者に大きな影響を与えている

■トライ＆エラーから宝物を発見

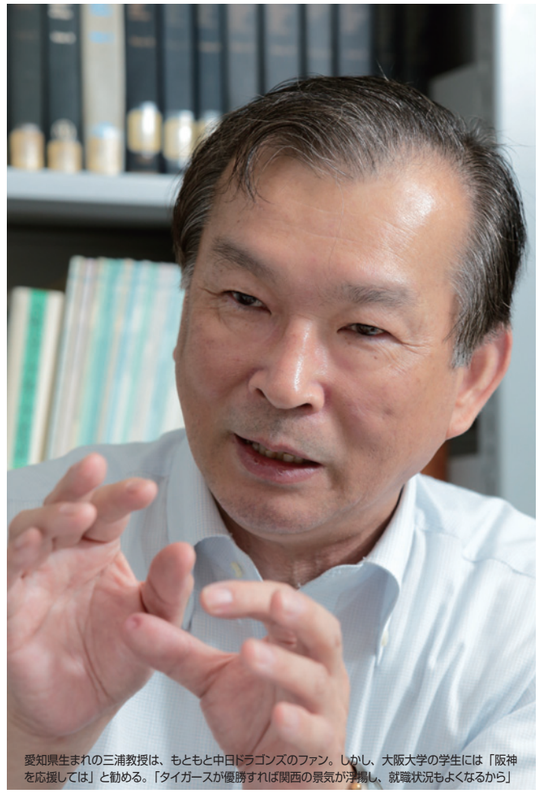
三浦教授は、触媒化学や錯体化学などの既存知識、情報を検討し、そこからアイデアやヒントを得て研究を進める。情報の組み合わせから出発して目標に近づいていくポイントは、「何ができるかを自分なりにじっくり考えること」。しかし、新たなクロスカップリング反応の確立までは、平坦な道のりではなかった。「しっかりとした予想を立て、実証実験に臨んでも、予想外の結果が出ることが多いのです。でも実は、思った通りにいかない反応が生じたときの方が、その後よい結果につながりますね」と語る。研究が飛躍的に進むターニングポイントは、当事者の思惑の外にあるものかもしれない。



従来のクロスカップリング反応(上)と、三浦教授グループのクロスカップリング反応の方法論(下)

■人々に支えられ、歩んできた

工学部では理論有機化学を研究する研究室に進んだ。ところが、「卒業研究用に入手した実験材料の純度がたまたま低かったために、思わぬ反応を起こしたのです。その面白さに魅せられ、大学院博士課程まで進み、合成研究で学位を得ました」。その後、民間企業で働いていた時代は、農薬の研究に従事。短期間ではあるが、その頃培った薬品の合成に関する基礎知識は、現在の研究にも大いに役立っている。



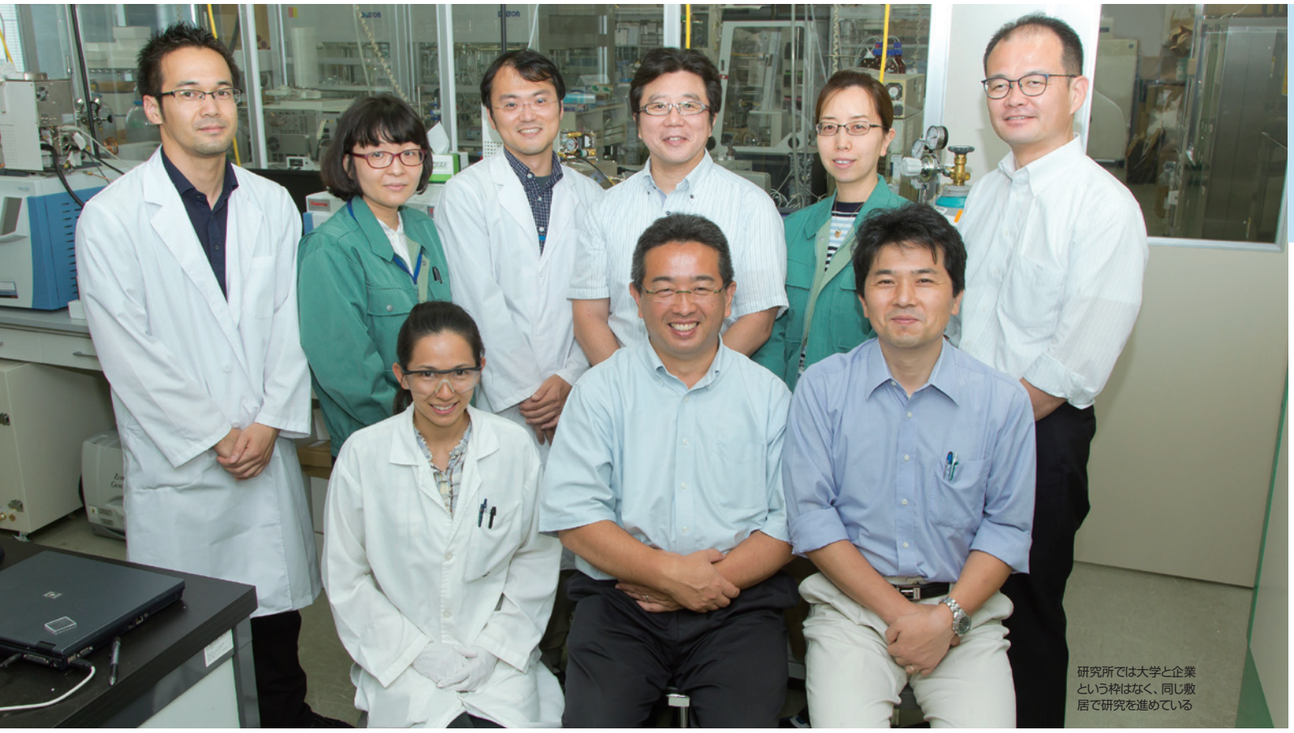
愛知県生まれの三浦教授は、もともと中日ドラゴンズのファン。しかし、大阪大学の学生には「阪神を応援しては」と勧める。「タイガースが優勝すれば関西の景気が浮揚し、就職状況もよくなるから」

世界が注目する研究を進めていける理由を聞くと、「私がやってこられたのは多くの先輩たちや仲間に恵まれたからですよ」と言う。特に、トムソン・ロイターの「リサーチフロントアワード」をともに受賞した佐藤哲也・大阪市立大学教授(受賞時は大阪大学准教授)のことは「彼なしでは、ここまで成し遂げられなかった」と賞賛する。

「大阪大学には、長きにわたるクロスカップリング研究の土壌があり、その成果の上に現在の研究があるのです。例えば、工学研究科の村井眞二名誉教授や基礎工学研究科の村橋俊一名誉教授などの名前を挙げることができます。特に村井先生には研究のアイデアを聞いてもらい『三浦君、それ面白そうやん』と言われ、大いに力づけられました」村井名誉教授の合成化学研究は今では後継の茶谷直人研究室に受け継がれ、三浦教授とともに大阪大学のカップリング研究の歴史を未来へとつなげている。

かつて、諸先輩に支えられてこの道を歩み始めた三浦教授。今では「学生がメインプレーヤー」という考えに基づいて、熱心に研究を続ける学生たちを応援する。「やる気がある学生は空振りもする。しかし数多く空振りする人は時にはヒットも打てるし、ホームランも飛ばせる」と、後進の指導を心から楽しんでいる。

●三浦 雅博(みうら まさひろ)
1978年大阪大学工学部応用化学科卒業。同工学研究科プロセス工学専攻修了、同大学助手、助教授を経て2005年から工学研究科応用化学専攻教授。12年、「炭素-水素結合切断を経る酸化的カップリングの新手法開発」により、トムソン・ロイターの「リサーチフロントアワード」受賞。14年には「環境調和型脱水素クロスカップリングの新手法開発」により、GSC(グリーン・サステイナブル ケミストリー)賞 文部科学大臣賞を受賞。



研究所では大学と企業という枠はなく、同じ敷居で研究を進めている

◉日立造船×阪大「Hitz(バイオ)協働研究所」

大学キャンパスに企業を誘致 阪大の *Industry on Campus*

植物バイオマスを活用し、人と環境に優しい機能性素材の研究開発から商品化まで取り組んでいる「Hitz(ヒッツ)(バイオ)協働研究所」。大阪大学の産学連携制度に基づき、2012年10月、日立造船株式会社が大阪大学内に設置。「Industry on Campus」のキャッチフレーズのもと、基礎研究から応用研究まで企業や大学の枠を超えて取り組んできた。他の国立大学にはないユニークな協働研究所を取材した。

◀大阪大学の産学連携拠点であるテクノアライアンス棟

■ 協働研究所

企業の研究組織を大阪大学内に誘致、多面的な産学協働活動を展開する産学連携の新たな仕組み。社会の発展に資する学問領域の研究拠点を産業界と共同して大学内に長期的に確保・協働することにより、大阪大学における研究成果の産業界への活用促進、研究の高度化及び高度人材育成の充実を図る。現在、吹田キャンパスに7つの協働研究所を設置。大阪大学では、約10年前から産学連携制度の新しい枠組みとして、企業との共同研究講座・共同研究部門の設置を積極的に推進してきた。

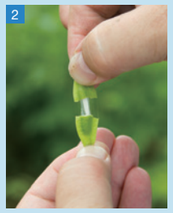
植物由来で耐衝撃性に優れた機能性素材を阪大と『協働』で研究開発

▼トチュウエラストマーという新素材

Hitz(バイオ)協働研究所は、大阪大学の産学連携拠点であるテクノアライアンス棟(吹田キャンパス)内に設立。8、9階に400平方メートルを超えるスペースを持つ。

中澤慶久所長

主な研究テーマは、「トチュウエラストマー」という、超高分子量ポリイソプレン(天然ゴムの仲間で硬質のゴム素材)を主成分とする機能性素材。「トチュウエラストマーはトチュウという植物が生成する天然ポリマー。ゴムでも樹脂でもない性質を持っています。天然ゴムより耐衝撃性に優れていて、副材として樹脂などと混合することで強度が向上します。植物性バイオマスですので、環境にも優しい。天然ゴムのようなアレルギーも起こらず、抗菌性も発揮します」と、同研究所の中澤慶久所長(大阪大学特任教授)は言う。



1 トチュウの種子
2 トチュウの種を割ると、トチュウエラストマーの原料が見える
3 薬学研究科附属薬用植物園では、約8000本のトチュウを栽培している

▼日立造船の新規事業

実は「トチュウ」とは、健康茶で知られる杜仲(トチュウ)茶などの原料としても利用されている落葉高木。日立造船が1987年にバイオ事業部を設立して杜仲茶の製造・販売を行い、94年に杜仲茶ブームを巻き起こしたという経緯がある。

このトチュウエラストマーを、石油資源に替わる植物由来の新たなバイオマス資源として利用しようと、98年に日立造船と大阪大学が研究開発をスタート。バイオテクノロジーや代謝物解析など、トチュウを主材料とした研究が行われ、10年に「Hitzバイオマス開発共同研究講座」を工学研究科に設置。その後、より多面的な産学協働を行うため、「Hitz(バイオ)協働研究所」を開所。大阪大学内に拠点を完全移行したことで、産学連携がさらに順調に進み、研究開発の内容が高度化してきた。

▼トチュウ一筋の人生

資源植物学を専門とする中澤所長は、かつて日立造船で杜仲茶事業を立ち上げたメンバーの一人。「入社以降、約30年、杜仲茶の商品開発から販売、トチュウエラストマーの研究開発までトチュウ一筋の人生です」。Hitz(バイオ)協働研究所には、大阪大学の教員のほか、日立造船からの招へい教員・研究員、ポスドク・大学院生など多様な人材が集結し、幅広く重層的な活動を展開している。「営業担当の齋藤浩招へい研究員が、全国の展示会などを駆け回り、トチュウエラストマーや阪大との産学連携などに関するPR活動をしています」と話す。

大阪大学を拠点に新しい産業の創出をめざして

▼基礎研究から応用研究にいたるまでを阪大で

Hitz(バイオ)協働研究所として再発足して3年目。「約10年前から取り組んでいる基礎部分では、トチュウが高分子量ポリマーを作るメカニズムや遺伝子などが分析できました。また、バイオマスを扱うために重要な、植物の特性や栽培方法などの基礎的データが得られました。協働研究所として取り組んでいる応用部分では、トチュウエラストマーを各種ポリマーや金属など他の物質と混ぜ合わせる実験を繰り返し、従来のバイオ系素材の弱点だった強度を補完できることが分かりました。トチュウエラストマーはバイオ系で耐衝撃性を出せる唯一の素材。認知度を上げ、さまざまな産業への応用をめざしたいと考えています」

◀トチュウエラストマーを材料として用いたゴルフボール。鉄の塊で力いっぱい衝撃を与えても壊れない耐衝撃性が特徴

▼阪大内でもトチュウを栽培

現在の課題はトチュウエラストマーの量産と安定供給だという。「研究開発と異なり、事業化にはトン単位のオーダーが必要になります。また他国(中国)に農園を持ち栽培していくことの難しさもあり、基礎研究担当の鈴木伸昭招へい准教授が、遊休地などを活用した国内栽培を模索中です」。すでに薬学研究科附属薬用植物園(吹田キャンパス)で品種改良も行われ、8000本ほどのトチュウが栽培・準備されているという。

▼新たな「産・産・学連携」も誕生

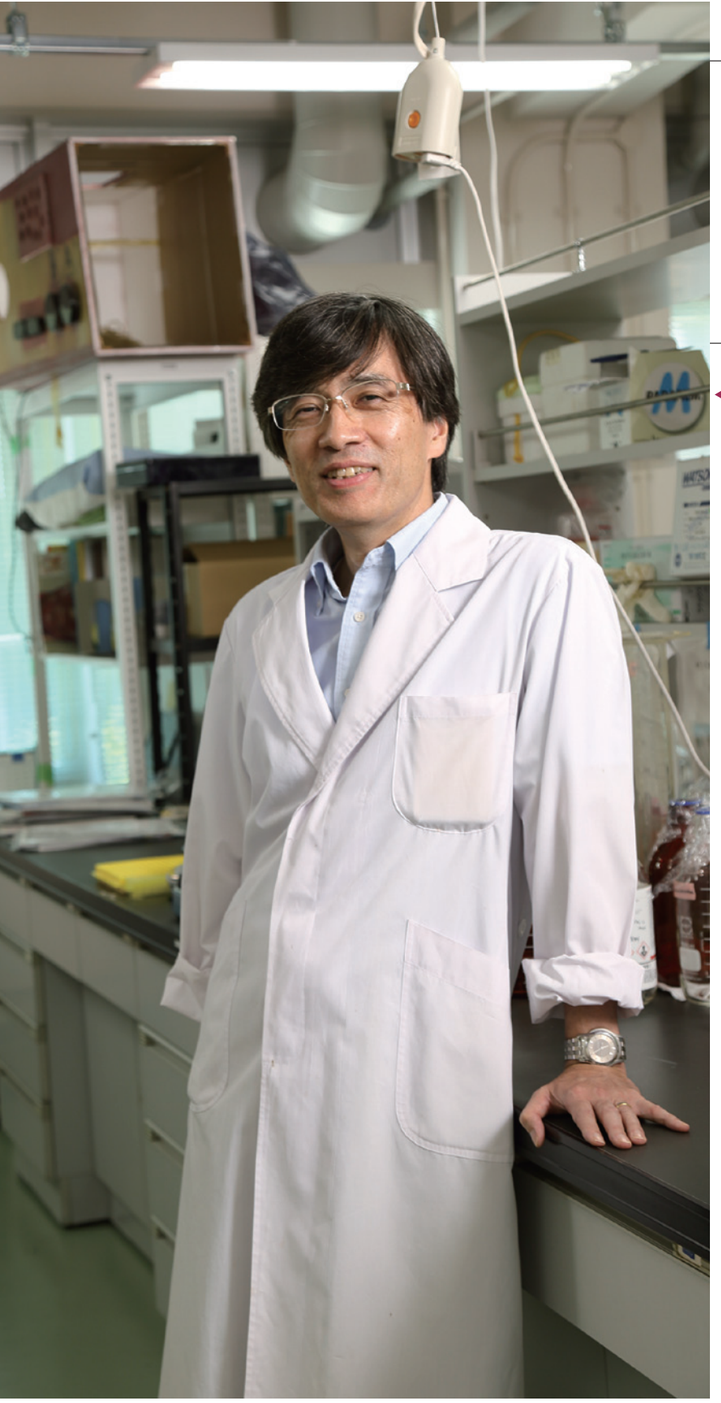
同研究所の大きな特徴は、大学内にありつつも企業側が研究開発のイニシアチブを取れること。さらに、新たな動きとして、産学連携にとどまらない「産・産・学連携」の研究開発システムが生まれつつある。「テクノアライアンス棟には他にもさまざまな企業の研究組織が移設され、『産・産』のプロジェクトが始まっています。トチュウエラストマーに関しても、阪大を拠点として、他社と一緒にモノづくりにまで携わっていきたい」と中澤所長。

▼阪大の新しい産学連携のかたち

Hitz(バイオ)協働研究所の歴史は、大阪大学の産学連携の歴史そのものであり、代表的な成功事例の一つといえる。中澤所長は「阪大が窓口となることで、トチュウエラストマーというイノベーションの芽に、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)などの公的資金が注入され、日立造船の経営に多くの負担をかけず、中長期的視点で開発を続けてこられました。大阪の気質をもち、産学連携を発展させようとする意志が高い阪大だからこそできること。トチュウエラストマー研究は、阪大とのタッグでしかなし得なかったことだと思っています」また、人材育成にも力を入れており、キャリアデザインなどの授業も担当する。「ここで研究する学生全員が日立造船に来るわけではないのですが、他社に行っても連携できるというのが大きいですね。学生には、『あきらめない』人になってほしいです。10年に1回物事を成し遂げられればよいのです」

▼アカデミックと産業界の融合を

今後のさらなる目標は多様な素材の開発。「医学部・歯学部などと、生体系の素材開発の研究を進め、医・歯・工連携といったプロジェクトに取り組みたい」と意欲満々。「企業が中央研究所のような組織を持ち研究開発をする時代は終わり、これからは大学というアカデミックな組織と融合し、そこから産業界と連合していくシステムが重要。そのためのチャレンジをHitz(バイオ)協働研究所で行っています。試行錯誤しながら、ぜひ成功させたいですね」



2015年度 総長顕彰受賞

アカデミア創薬で「薬のまち」大阪の新しい時代を切り開く

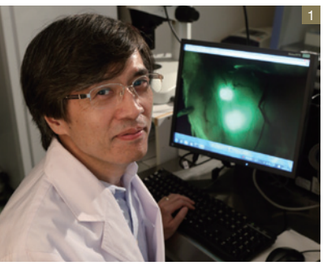
薬学研究科医療薬学専攻教授
辻川 和丈── *Kazutake Tsujikawa*

辻川和丈教授は、すい臓がんなどの進行に関わる遺伝子を発見、これをもとに新薬の開発を進めている。少年時代から遙かな天空にあこがれているという辻川教授の関心は、現在は微細なヒト細胞の研究へ注がれる。全く逆のように思えるが、「細胞の仕組みは、深遠さにおいては宇宙にも匹敵する。近いようだが、なかなかたどり着けないところは共通している」という。「人を助けることができる、人生をかける価値がある」とこの道に進んだが、「何十年かけても、たった数十μm（マイクロメートル）の距離がまだ遠い」と目を細める。

辻川教授は大学院修了後、薬をつくりたいと製薬企業に就職。しかし、創薬システムが分業化されていたため、「薬を見つけ、生産ラインに乗せ、患者さんが喜ぶ姿を見届けたい」という願いを実現すべく、大阪大学薬学研究科の研究生として、学問の道に戻った。

当時の薬学研究科では遺伝子工学が確立されておらず、分子生物学を薬学の世界に生かそうと、助手時代に渡米。「受入れ先のハーバード大学医学部の関連医療機関で、出迎えてくれる入院中の子どもたちが、副作用に苦しみ、いつの間にか姿が見えなくなって……。衝撃的でした。なんとしても治療薬をつくりたいと固く決意しました」。以来、がん治療、分子細胞生理学の道を走り続けてきた。

15年、政府の成長戦略の目玉として日本医療研究開発機構（AMED）がスタート。大阪大学でもアカデミア創薬の拠点がつくられ、辻川教授はその運営にも携わる。「大阪は、昔から『薬のまち』として、最先端の研究が行われてきました。難治性疾患に力を発揮する、アカデミア発の創薬をつくりたい」と語る。天空には手が届かなかったが、数十μmの世界で患者を助けるという目標を叶えるべく、日々奮闘する。



■写真説明　1 モニターにはがん細胞を発光させたマウス。がん診断などの応用に期待されている
2 研究室の学生・研究員たちと教授室で研究ミーティングも

●辻川和丈（つじかわ かずたけ）
1982年大阪薬科大学薬学部卒業。大阪大学薬学研究科、製薬企業勤務を経て、88年大阪大学薬学研究科助手。ハーバード大学に研究留学、2010年応用医療薬科学専攻教授。12年から同医療薬学専攻教授、薬学研究科附属創薬センター教授を兼任。日本微量元素学会会長賞（92年）、免疫毒性学会大会賞（06年）、バイオビジネスアワードJAPAN大賞（11年）などを受賞。専門は分子細胞生理学、がん治療創薬など。総長顕彰は4年連続での受賞。

天空へのあこがれは飛行機に。生まれて初めて乗った飛行機など、それぞれいわれのあるミニチュア▶

［総長顕彰］：教員のうち、教育、研究、社会・国際貢献または管理運営上の業績が特に顕著であると認められた者を顕彰し、大学の一層の発展を期することを目的としている。

2015年度 総長奨励賞受賞

ミクロの世界が見える電子顕微鏡に魅かれ極限環境下での物性の解明に挑む

超高圧電子顕微鏡センター 助教
小林 慶太── *Keita Kobayashi*

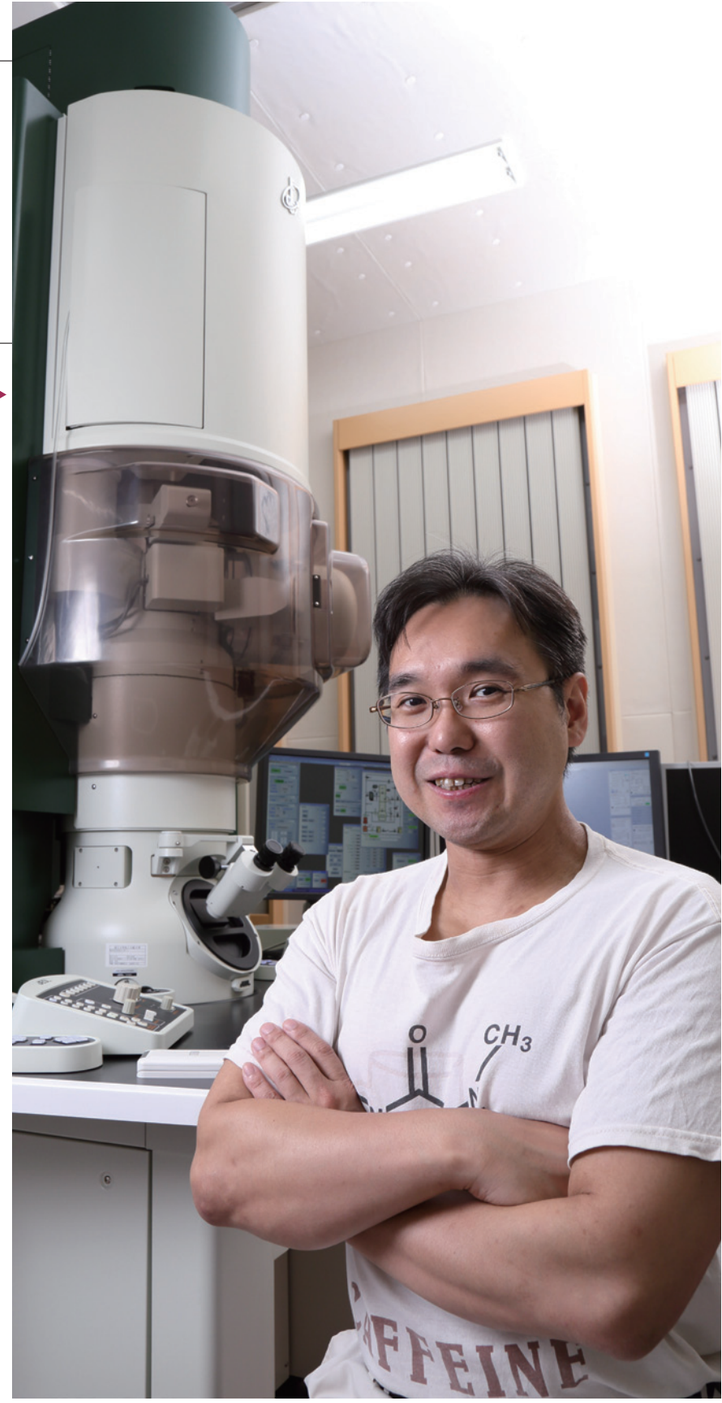
小林慶太助教は電子顕微鏡を用いてさまざまなナノ物質に関する研究を進めている。小林助教が電子顕微鏡に出会ったのは、大学4年のころ。材料の構造が「具体的な形までキレイに見える」ことに強い印象を受けた。

現在の主な研究テーマは、極限環境下での物質の物性。真空や低温、カーボンナノチューブの中など、普通でない（極限）状態での物性を調べる。「たとえば、氷の結晶は一般には雪の結晶のように六角形ですが、特定の条件下では様々な異なる構造に変化する。低圧・極低温という宇宙空間を模した環境で観察すると、強誘電性を示す結晶が得られました。これまで、重力の関与だけでは解き明かせなかった惑星の生成に、強誘電体としての氷の関わりを示唆するものです」という。

電子顕微鏡の魅力は「ミクロの世界がはっきりと目に見えること。ただ、マクロな観点では満足できたかに思える材料が、電子顕微鏡で見ると、実は失敗していたり……。厳しい現実をつきつけられます」という。それでもどうせなら、きれいな画像を撮るのが望みだと笑う。

やりはじめると仕事も趣味も、とことん打ち込む性格。ベンチプレスでは150kgを持ち上げるという。また、「気になるものは集めたくなる」と、研究室にはカプセル自動販売機で集めたマグネットがしっかり「展示」されている。

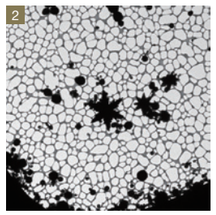
同センター赴任をきっかけに研究の方向性が大きく変化。「つくりだした材料を電子顕微鏡で分析、検討するという方向から、電子顕微鏡で材料の物性そのものを研究するという方向に転換した」という。「今後はこの二つの方向性を統合し、物性研究の知見を生かした材料開発を手掛けていきたい」と夢を描く。



●小林慶太（こばやし けいた）
2004年三重大学工学部卒業。同工学研究科修士課程、名古屋大学理学研究科博士課程修了。博士（理学）。産業技術総合研究所特別研究員などを経て、12年大阪大学超高圧電子顕微鏡センター助教。帝人賞（08年）、日本金属学会奨励賞（14年）を受賞。透過型電子顕微鏡法による多様なナノ物質に関する研究を進めている。

◀思わずカプセル自動販売機で購入したネコのマグネット

［総長奨励賞］：若手教員のうち、教育又は研究の業績があると認められ、将来活躍することが期待される者を顕彰し、奨励することを目的としている。



■写真説明
1 超高圧電子顕微鏡センターでは世界最高300万ボルトの巨大な電子顕微鏡が運用されている
2 氷の結晶を電子顕微鏡で撮影したもの。様々な構造がくっきりと見える
3 小林助教の研究成果は、海外の論文誌にも掲載されている

新しい価値を創造し
高いクオリティで会議を支える

◉OG訪問
● 株式会社コングレ代表取締役社長
武内紀子―― *Noriko Takeuchi*

世界の人々が集う国際会議や学術会議、展示会などを運営する株式会社コングレ。歴史的なコンベンションの運営に数多く携わり、国内シェアトップにまで成長した。安倍政権の成長戦略でも注目されるコンベンション産業。2013年に社長に就任した武内紀子さんはこの道のトップランナーだ。

武内 紀子

●武内紀子(たけうち のりこ)氏
1986年大阪大学人間科学部卒業。コンベンション企画運営会社勤務を経て、90年コングレ設立に参画。01年取締役営業企画部長。常務取締役、代表取締役専務を経て、13年6月から代表取締役社長。一般社団法人日本コンベンション協会(JCMA)代表理事、観光立国推進協議会幹事、文化庁文化政策部会委員、大阪府観光客受入環境整備の推進に関する調査検討会議委員などを務める。

グランフロント大阪ナレッジキャピタル
コングレコンベンションセンターで

◉きっかけは学生時代のアルバイト

「そんな仕事があるの？」今もよく言われるという。聞き慣れないプロフェッショナル・コングレス・オーガナイザー(PCO)という仕事との出会いは大阪大学の学生時代。何でもやってみたい気分の中で、「なんだろう」と思いながら、学内掲示板で見つけた、とある学術会議の運営スタッフにアルバイトとして飛び込んだ。縁の下の力持ちとはいえ、最先端の知と触れあえるワクワク感を味わい、卒業後、コンベンション企画運営会社に入社した。

▲2001年7月開館の日本科学未来館(東京・お台場)は、開業前準備から担当した文化施設のひとつ

ここで4年間の経験を積み、1990年に会社の仲間とコングレを設立。花の万博(国際花と緑の博覧会、90年)や日本科学未来館の立ち上げに携わった。また、北海道洞爺湖サミット(08年)、国際通貨基金(IMF)・世界銀行年次総会(12年)など200以上の会議を手掛けてきた。地球温暖化防止京都会議(COP3、97年)は、営業責任者として受注から会議の運営まですべてに関わり、歴史的な現場に立ち会えた。「コンベンションビジネスは、ビビッドな世の中の動きとセットなんです。ニュースがすぐ隣にあるすごく面白い仕事です」

▲運営に携わった北海道洞爺湖サミット

◉グランフロント大阪に進出
――阪大とも連携した仕事を

国際会議の運営を中心に、そのノウハウを生かして、全国約80カ所のコンベンション施設・観光文化施設の運営に携わる。13年には大阪の新名所・グランフロント大阪に、業界初の民設民営のコンベンションセンター、ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンターを開設。JR大阪駅直結というロケーションも奏効し、稼働率は好調だという。

阪大とのつながりは、医学系の学術会議などを通じてより広がっている。学生時代の恩師、青木保大阪大学名誉教授(国立新美術館館長)とも交流が続いているという。「センターの開業を機にグランフロント大阪という“街”の一員として、まちづくりにも参加しています。ぜひ(母校である)阪大とも連携して、地域貢献していきたいですね」

◉異文化に触れた学生時代

子どものころから新聞を読むのが好きで、世界各地の文化の違いに興味を持った。文化人類学を学ぼうと人間科学部に入学し、シドニーでのホームステイや仏・シャルトルへの巡礼など異文化に触れた。学生時代の経験は、国際会議などの仕事をするうえで役立っている。「もともと人間科学部は1期生から破天荒な人が多かったと聞いています。私たち11期生は既に平凡だと言われていましたが、ユニークな人もたくさんいました。合宿や旅行、大学祭でも盛り上がりました。2年生で下宿を始め、下宿の仲間といろいろ話し、遊び、勉強したことは、本当に一生の財産です」

▲シドニーにホームステイしたときのホストファミリーと

▲友人と大学祭を楽しむ武内さん(前列左)

◉新しい価値を創造したい

社長に就任して丸2年。クライアントのニーズも多様化し、難しい仕事も多い。「世界規模のビッグプロジェクトですから、社員がプレッシャーに押し潰されないように応援するのも私の大きな仕事です。単に業務として処理するのではなく、世界中からの参加者、来場者に満足していただくため、もう一歩踏み込んだ『気遣い』が必要だと感じています。世界は近くなっています。私たちの会社が新しい価値を創造できたらうれしいですね」

来年3月には日本初のドローン(無人飛行機)の国際専門展示会も立ち上げる。「コングレ設立から25年。施設というハードを持っている強みを生かし、これまでの受託型から自主的な企画型に事業を広げようとしています。世の中の動きをタイムリーに捉える企画にもさらに挑戦したい」。サミット、ワールドカップ、オリンピック・パラリンピックなど、「次」を見据えて飛躍しようとしている。

◉一石投じてやろうという気概を

人とのつながりを大切にし、仕事を好奇心につなげて前に進んできた武内さん。「この仕事は、コミュニケーション能力はもちろん、提案力も必要です。学生時代から好奇心を持って世の中と関わり、一石を投じてやろうという気概を持ってほしいですね」と後輩へメッセージを送る。

企業情報

■株式会社コングレ
(東京本社：東京都千代田区麹町5－1、弘済会館ビル)
1990年6月設立。国際会議、学術会議など大型コンベンション・展示会・イベントの企画運営を行う。コンベンション施設・観光文化施設の運営・管理も担当。従業員数290人のうち大阪大学卒業生は8人。
ホームページ　http://www.congre.com/

株式会社コングレ

◀「月刊たる」

お酒を通じて日本の食文化や美上質な遊びを提案したい

▲大学4年の時にフィジーにダイビングに行った際のホテルで

◉OB訪問
●たる出版株式会社代表取締役社長　米国公認会計士
山口 一 ── *Hajime Yamaguchi*

関西を中心に、お酒に関わるグルメや食文化などを紹介する「月刊たる」を発行している「たる出版株式会社」の山口一社長。「店の情報を紹介するだけでなく、ベースにお酒があり、そこからおいしいお酒の飲み方や食文化、上質の遊びを提案していきたい」と熱い思いを話す。一方、自ら立ち上げたコンサルティング会社で、米国公認会計士としても活躍。「一足半のわらじ」でパワフルな活動を続けている。

和食が世界遺産になり、日本酒やジャパニーズウイスキー等が海外でも人気となるなか、日本の食文化を世界に発信していきたい。

●<写真撮影協力>メうどん讃楽
大阪市北区曽根崎新地1－5－26　永楽リンデンビル1F
06(6345)5551

●山口 一(やまぐち　はじめ)氏
たる出版株式会社代表取締役社長。1990年大阪大学経済学部卒業。南都銀行に入行、在職中に米国公認会計士の資格を取得。その後、外資系投資信託運用会社等を経て独立し、コンサルティング会社を設立。2015年から現職。

◉一人静かに酒を飲む

大阪・北新地のなじみの店「メうどん讃楽」のカウンターで一人じっくり酒を味わう山口さん。仕事を終えた解放感にひたると同時に、やはり仕事柄なのか店に並ぶお酒や旬の肴などについつい目がいってしまう。大阪大学を卒業後は長年にわたって金融関係の仕事をしていた山口さんが、どのようにして出版業に携わることになったのか。そこには「偶然の出会い」と、山口さんが歩んできたなかでの「必然のなりゆき」があった。

◉錚々たる教授陣がいる阪大で勉強したくて

京都・西陣織で、漆を使った金箔の「箔押し」を家業とする家の長男として生まれた。大学へ進学する時に、「好きな数学を生かせる学部ということで経済学部に行こうと思いました。当時、関西にある国立大学で、大阪大学には錚々たる先生方がおられ、経済を勉強するならこういう環境の中で学びたいと思ったのがきっかけでした」

入学後は公共経済学を専攻し、後に経済学部長になった柴田弘文教授のゼミで学んだ。向学心旺盛で「土曜日に開講する講義も、とても興味を引き付ける授業だったので、皆勤してちゃんとノートをとっていました」という。

◉余暇も謳歌

クラブ活動は、高校の先輩や同級生が所属し、合格発表の時に胴上げをしてもらったのが縁で男声合唱団に入部したが、家族の病気介護もあって、1年で退部。その後は勉学に励む一方、幼い頃から素潜りが好きだった延長線上でスキューバダイビングに魅せられ、国内各地はもちろん、オーストラリアやフィジーにまで出かけたとか。

◉米国公認会計士資格を取りキャリアアップ

大学4年生を迎えた1989年はバブル経済の真っただ中。「金融か商社を志望しました。それも全国を飛び回るよりも、地方に腰を据えた地方銀行の方が自分のやりたい仕事にじっくり打ち込めるのではないかと、南都銀行(奈良市)に就職しました」。こうして社会人生活が始まり3年が経った時、銀行内で「関連の深い三菱銀行香港支店(当時)への6ヶ月間研修の募集」があり、それに応募したところ山口さんだけが見事に合格。

「もともと外国語を学ぶのが好きだったので、現地での生活もすんなりと受け入れられたし、広東語も少しは話せるようになりました」。その経験が買われて帰国後は国際部で海外投融資を7年にわたって担当。さらに「会計の基準が国際会計に移行しようという時代の趨勢もあって、米国公認会計士の資格を取得しました」。南都銀行に16年勤めた後、外資系投資信託運用会社のフィデリティ(ボストン)等の勤務を経て、1人でコンサルティング会社を立ち上げた。そしてここで、思いもかけなかった出版業界との出会いがあった。

◀たる出版のオフィス

◉畑違いの仕事へ

「中小企業の財務サポートをしていくなかで、『たる出版』の髙山惠太郎代表(現・会長)と出会い、財務的な相談を受けるようになり、経営ミーティングにも参加するようになりました」。昔からおいしいお酒や食べ物を探すこと、さらに文章を書くことも好きだった山口さんにとって、出会うべくして出会った仕事でもあった。同誌に「はじめの京はじめ」というエッセイを連載したことでいっそう距離が縮まり本格的に経営参画。2015年1月に社長に就任した。

◉誌面作りは30代、40代も意識。将来は英語版も

「関西は出版不毛の地と言われ、ほとんどの会社は東京にシフトしています。そうしたなか、お酒の業界だけでなく関西の文化人にも愛され、創刊から35年続いてきた『たる』を守り、次の世代に向けて大きくしていきたいと思っています。紙媒体が厳しい状態に置かれている今、出版業をどう活性化していくのか？重い使命を背負っています。電子書籍化も検討しなければなりませんが、紙媒体が無くなることは決してありませんから」

現在の読者層は50代や60代の男性が多いが、「最近は30、40代も意識した誌面作りをしています。社員はたった8人と少数であるので、みんなには常に自分のやりたいことを持って取り組んで欲しいと話しています」とも。和食が世界遺産になり、日本酒やジャパニーズウイスキー等が海外でも人気となるなか、「いずれは英語版を作って、日本の食文化を世界に発信していきたい」と夢は広がる。

◉いろいろな人と出会うことが、大きなプラスに

一方で、米国公認会計士として国内や香港などを飛び回る。そんなハードな仕事の合間に熱中しているのは、中学時代にも没頭した陸上競技。「マスターズ陸上に登録して月に1回くらい競技に出ています。大会前にはお酒を極力控えていますが、お付き合いもありますし……」と日焼けした顔から白い歯をのぞかせた。さまざまな出会いを経てきた道のりを振り返り、大阪大学で学ぶ後輩には「4年間という限られた時間の中で、いろんな人と知り合いになり、それを継続していくこと。どれだけ人を知っているかが仕事にも私生活にもプラスになる」とアドバイスを送る。

▲たる出版発行の単行本

企業情報

たる

■たる出版(大阪市中央区南久宝寺町4-5-11)
酒のおいしい味わい方や酒にまつわるグルメ、食文化などを紹介する月刊誌「月刊たる」を1980年に創刊。現在は毎月10万部を発行。「壽屋コピーライター　開高健」(坪松博之著)などの単行本も出版している。
ホームページ　http://taru-pb.jp/

日本人２人目、女性初の

「レゴ®職人」阪大生！

◉レゴ®ブロックの楽しさを大人にも伝えたい

● 基礎工学研究科博士課程３年
中山かんな── *Kanna Nakayama*

2015年2月、プロのレゴ®職人を決める「マスター・モデル・ビルダー」コンテストで優勝を果たした中山かんなさん。世界に13人しかおらず、日本人で2人目、女性で初めての快挙だ。基礎工学研究科の学生として勉強を続けながら、今年4月に大阪・天保山にオープンした屋内体験型施設レゴランド®・ディスカバリー・センター大阪の専属マスター・モデル・ビルダーとして、子どもたちにレゴ®の楽しさを伝えている。

「マスター・モデル・ビルダー」コンテスト授賞式（イオンモール鶴見緑地（大阪市））▶

▼レゴ®をきっかけに阪大へ

レゴ®ブロックは、中山さんが生まれたときから身近にあった。「姉のレゴ®ブロックで、いつも遊んでいました。レゴ®社が認定するプロがいると知ったのは、小学校3年のとき。その人たちの動画を見て、モーターを使った動くロボットやラジコンカーも作り始めました」

進路を決定づけたのも、レゴ®だった。「レゴ®ブロックを使ってロボットを作る講義が阪大にあると知って、基礎工学部に入学しました。その講義のTA（ティーチング・アシスタント）になりたいと思って基礎工学研究科の宮崎文夫研究室に入り、3年間TAを務めました」

修士2年のときに本学のフロンティア研究センター主催「学生チャレンジプロジェクト」に応募したことをきっかけに、レゴ部を創設。中山さんは、初代部長を務めた。

▼レゴ®職人コンテストに挑戦

3年前に、初めて「レゴ®職人」コンテストに挑戦。しかし結果は予選落ち。悔しさをバネに今年2月、再チャレンジ。

今年のコンテストでは、予選を勝ち抜き決勝へ。審査では、技術や表現力に加え、観客である子どもたちをいかに味方につけるかがカギとなる。「子どもたちは邪魔しようと近寄ってくるのですが、パーツを仕分けたり、部品を作ってもらうよう課題を与えることで、味方になってくれました。あえて制限時間ギリギリに完成させて、周りに喜んでもらうことも意識しましたね」

◀「もしレゴ®がなかったら？ 無趣味な人間だったでしょうね。暇なとき、よくノートの片隅に落書きするような感覚。頭にイメージはなく、手が勝手に動いて組み立てています」

「最後は子どもたちを巻き込み、優勝できました。うれしかったですね。大好きなレゴ®に認められて。レゴ®ブランドの仕事に関われるようになるんだと思いました」

▼阪大生マスター・モデル・ビルダーとして

現在は、レゴランド®・ディスカバリー・センター大阪で子どもたちにレゴ®ブロックの楽しさを伝えたり、他に2人いる先生の指導にもあたっている。場所柄、海外からの観光客が多く、外国人の子どもも多い。

「レゴ®ブロックのいいところは、言語がいらないこと。日本語で教えていますが、パーツがあったときの『あった！』と、完成したときの『できた！』だけは覚えて帰ってくれます」

また、現役阪大生でもある中山さんは、基礎工学研究科でリハビリテーションロボティクスの研究も続けている。

▼レゴ®ブロックの楽しさを伝えたい

今後の目標は、「レゴ部のときのように、もっとイベントをやりたいです。特に、大人向けのイベント。この施設は子ども向けで、大人だけでは入場できない。月1回『大人のレゴ®ナイト』というイベントを行っているのですが、そんな場を通じてレゴ®の話をしたいですね。月に1回といわず、2回、3回となればいいな」

「レゴ®ブロックの魅力は、不器用でも創作ができるところ。たとえば車が欲しくてもすぐに買えないとき、レゴ®で作ればとりあえず満足できる。車が手に入らないというマイナスの気持ちが、うれしい気持ちに変わります」と語る。これからの活躍を応援したい。

●中山かんな（なかやま かんな）
基礎工学研究科博士課程3年。機能創成専攻機能デザイン領域制御生産情報講座 ロボティクス・メカトロニクスグループ（宮崎文夫研究室）に所属。レゴ®歴24年。

■レゴランド®・ディスカバリー・センター大阪（大阪市港区海岸通1-1-10 天保山マーケットプレース3階）

3歳から10歳までの子どもとその家族を対象としたレゴ®がテーマの屋内体験型施設。入場するには、15歳以下の子どもの同伴が必要。

［営業時間］10:00～20:00（最終入場は18:00）
［定休日］不定休（天保山マーケットプレースの休館日に準ずる）
※予告なく、営業時間が変更される場合あり。大人の方のみの入場は不可。第1水曜日の夜に開催される「大人のレゴ®ナイト」のみ、大人だけで入場可。

学生ならではの 力強く、壮大なオーケストラ演奏

大阪大学交響楽団

◉大学の外にも、新たな活躍の場を広げる

2015年7月、105回目の定期演奏会でアルカイックホール（尼崎市）に満員の聴衆を集めた大阪大学交響楽団。通称「阪大オケ」と呼ばれ、約200人の団員を抱える阪大でも屈指のクラブ。毎年、入学式と卒業式には記念演奏で式典に華を添えるなど、長く受け継がれてきた伝統の中で、活躍の場を広げている。日々の練習に熱が入るなか、大所帯を牽引する団長らに話を聞いた。

▼練習の積み重ねが「まとまり」を生む

阪大オケの活動拠点は、豊中キャンパスの学生会館。夕方になると、団員たちが楽器を手に次々と集まり、練習に励む。目標は、毎年夏と冬に行われる定期演奏会。平日はパートごとの練習、土・日曜は合同練習を行っている。毎回、プロの指揮者を招いて開かれる定期演奏会の楽曲は3曲。曲によって演奏者やコンサートマスターが異なるのは、大人数の団員を抱える阪大オケならではの特徴だ。60人から70人ぐらいのオケを3組構成できる。

団長の一色創（いっしきそう）さん（人間科学部3年）は「阪大オケは現役学生で構成できるので、日々の練習の積み重ねがしっかりできるところが強みだと思います。オケの魅力は、『まとまり』。練習を積み重ねれば積み重ねるほど、演奏会で成功したときの喜びが大きいのが、いいところです」

▼定期演奏会にむけて

7月の第105回の定期演奏会では、指揮者にビッグネームである金聖響（きむせいきょう）氏を迎えた。1年前から出演交渉にあたったのが、マネージャーの松本優樹さん（外国語学部3年）。「高校生のとき、金聖響さんが指揮された演奏会を聞いたことがきっかけで、ぜひお願いしたいと思いました。金さんは、大学生であっても決して妥協を許さない人。こちらも練習で手を抜かず、必死で練習しました」と力を込める。

「実は、団員の3、4割は初心者です。楽器を始めるのは大学に入ってからという人も受け入れています。同じ楽器の先輩が教えたり、外部のトレーナーにレッスンを受けたりして、演奏会に出演できるレベルまで成長します。定期演奏会ではオーディションではなく、できるだけ全員が1曲は演奏する。強制もしないし、放ったらかしにもしない。そのバランスのよさが阪大オケらしい」と言う。

今回の定期演奏会でメインコンサートミストレスを務めた田中野乃（のの）さん（理学部3年）も、「コンサートミストレスが曲ごとに違うのは珍しいと思います。楽器も、上手い人だけが演奏するのではなく、ちゃんと育てる風土があって、初心者でも演奏できる環境にあるのが阪大らしい」と話す。

▼阪大以外での活動も活発

大学の式典だけでなく、NPO法人大阪府北部コミュニティカレッジでの記念演奏会や、兵庫県養父市での出張演奏会など、外部へも活躍の機会を広げている阪大オケ。「団長の任期は来年2月までですが、新しい活動の場を作って、阪大オケのさらなる発展に寄与したいと思っていますし、阪大にももっと貢献したいです」と一色さん。

▲学生会館での練習の積み重ねが、本番の壮大な演奏につながる

来年1月31日には、第106回定期演奏会が、西日本のクラシック音楽コンサートの殿堂と呼ばれるザ・シンフォニーホール（大阪市北区）で開催される予定だ。個性の違う団員たちが一つの目標に向かい、技を磨き合い、演奏会ごとに観客に聞いてもらうことで自信をつけていく。そんな貴重な時間を全員が過ごしている。

●一色 創（いっしき そう）［左］
団長。担当楽器はコントラバス。「先輩の功績に傷をつけるわけにはいかないので、演奏会はしっかり1回ずつ成功させていきたい」

●松本優樹（まつもと ゆうき）［中央］
マネージャー。担当楽器はオーボエ。「阪大オケの知名度をできるだけ上げたい。そのためにも、一回一回の演奏でいい音楽を聞いていただきたい」

●田中野乃（たなか のの）［右］
第105回定期演奏会のメインコンサートミストレス。4歳からバイオリンを始める。「繊細に丁寧に、精一杯練習したい。練習をすればするほど、互いの心のつながりは強くなります」

第16回「課外活動総長賞（大阪大学未来基金事業）」表彰式

“スゴイ”阪大生の活動を応援

今年の「課外活動総長賞（大阪大学未来基金事業）」に、体育系公認団体7件、文化系公認団体8件、個人・その他9件の合計24件の応募があり、選考の結果、優秀賞2団体、特別賞7団体（個人含む）の受賞が決定。7月28日に表彰式を行った。

■ 課外活動総長賞（大阪大学未来基金事業）

学外や複数の大学間の競技大会等で優勝等の優れた成績を収めていること、または社会から優れた評価を受け、本学の名誉を高らしめることに貢献していることなどを表彰の基準とし、課外活動総長賞選考委員会及び学生生活委員会において選考。

◉第16回「課外活動総長賞（大阪大学未来基金事業）」受賞団体　［　］内は受賞理由

優秀賞

- **落語研究部** ……［第12回全日本学生落語選手権 策伝大賞 優勝 など］
- **競技かるた会** ……［第21回全日本大学かるた選手権大会（団体戦） 優勝 など］

特別賞

- **漕艇部** ……［平成26年度関西選手権競漕大会（男子対抗エイト） 優勝（51年ぶり） など］
- **齊藤 丈晃**（準硬式野球部） …［平成27年度関西六大学準硬式野球 春季リーグ ベストナイン賞 など］
- **アーチェリー部** ……［第55回関西学生アーチェリーリーグ戦 男子第3位、全日本学生アーチェリー男子王座決定戦出場決定 など］
- **奇術研究会** ……［2014年度関西学生奇術連盟賞 プロダクション部門1位～3位 受賞］
- **環境サークルGECS** ……［第12回全国大学生環境活動コンテスト 環境大臣賞（グランプリ）受賞（2年連続） など］
- **OUXT-Polaris** ……［米国AUVSI（Association for Unmanned Vehicle Systems International）主催の自動航行船コンテストに出場し、6位入賞］
- **柳川 朔** ……［全米放送局NBCのコメディ大会“Standup NBC”に出場し、日本人として初のファイナリスト など］

• 優秀賞受賞団体代表者に聞きました •

落語研究部　◉坪田さよりさん（文学部2年）

落語研究会（落研）では、夏・秋・冬と6月・12月の計5回、定期的な寄席があり、これに向けて、毎週水曜日と土曜日に活動を行っています。もちろん、それとは別に個人練習も欠かせません。

最近は、「落研」も少しずつ名前が売れてきて、イベントでの余興としての活動も増えてきました。

今回の課外活動総長賞は、“落語の祖”と呼ばれる安楽庵策伝（あんらくあんさくでん）の名を冠した「第12回全日本学生落語選手権『策伝大賞』」で最優秀賞にあたる「策伝大賞」をメンバーのひとりが受賞したことから、課外活動総長賞の受賞も狙って応募しました。でも実際に受賞したと聞いたときは、やっぱり驚きましたね。副賞は、落語の活動に必要な三味線や能管、太鼓などの和楽器の購入に充てたいと考えていて、これからメンバーと相談です。

落語は、最終的には個人で演じますが、そこに至るまでにメンバー全体で作り上げていくところや、練習すればするほど上達を実感できるところも魅力です。伝統ある活動なので、後輩たちにいいかたちでバトンを繋いでいきたいです。

競技かるた会　◉井上慶太郎さん（工学部3年）

競技かるた会は、平日はほぼ毎日活動し、試合形式の練習を重ねています。対戦は90分くらいかかるので、一度に練習できるのは10人ほど。でも、メンバーで時間を調整しながら練習に励んでいます。

課外活動総長賞の受賞理由となった「第21回全日本大学かるた選手権大会（団体戦）」は、トーナメント形式により3人1組で技を競います。5回の対戦を勝ち抜いて臨んだ決勝戦は、実力の拮抗する強豪との対戦で、ギリギリ競り勝つことができました。この大会での優勝は団体としても初めてのことだったので、メンバーみんなで喜びを分かち合いました。

「競技かるた」と聞くと取っつきにくい印象を持つ人もいますが、札を取れた時の爽快感はクセになります。一見文化系のように思われがちですが、体育会系同様に「競技」をするので、「体育会系の体力はちょっと自信がないけど、競技の緊張感や爽快感を味わいたい」という人にはお勧めです。大学から始める人も多いので、興味のある人にはぜひ活動を見に来てほしいですね。

◉高大連携 GLHS

“今”を大切に生きる

豊中高校生360名に、平野総長とOBが講演

▲熱心に耳を傾ける豊中高校の生徒

◀高校生に熱く語りかける平野総長

▲校章は銀杏をモチーフにしている

▼豊中高校OBの平尾聡至さん（工学部2年）（左）と大島優人さん（外国部学部1年）（右）

7月8日（水）、大阪大学が連携協定を結んでいる進学指導特色校GLHS（Global Leaders High School）の大阪府立豊中高校1年生約360名が、同校の学習サポートプログラムの一環で大阪大学を訪れ、平野俊夫総長と同校出身の阪大生の講演を聴講しました。

平野総長は「医学といのち」と題し、大阪大学卒業生の手塚治虫氏の著作「ブラックジャック」のエピソードを用いて、移植医療や再生医療を題材に「いのち」とは何か、そして「生きる」ことの意味、インターロイキン6発見に至る話を絡め、夢を持ち「目の前の山を登りきる」ことの大切さについて熱く語りました。

また、OB学生からは、「1年生のときから自分自身に合った勉強方法を身につけておくことが大切」「2年3年の忙しい時期になる前に、オープンキャンパスに参加して、大学入学後のイメージを持ち、“今”だからこそできることを大切に」というメッセージを送りました。

阪大を見る！聞く！体験する！

オープンキャンパスを開催

7月31日（金）～8月18日（火）、学部ごとにオープンキャンパスを開催しました。真夏の暑さのなか、阪大入学を目指す高校生やその保護者らが多数参加しました。

•阪大生による学部紹介（人間科学部）

•阪大生による相談会の様子（歯学部）

•阪大生による研究室ツアーを実施（工学部）

学祭の秋「まちかね祭」

◉今年のテーマは「大阪振舞（おおばんぶるまい）」

第56回まちかね祭ロゴ

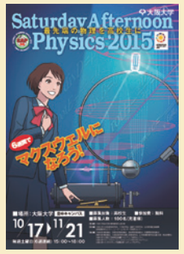
今年で56回目の開催となる『まちかね祭』。阪大生による模擬店やステージ企画など、趣向を凝らした企画が盛りだくさん。是非お越しください。

【日　時】11月1日（日）～3日（火） 10:00～19:00
【場　所】大阪大学豊中キャンパス
※当日は公共交通機関をご利用ください。

▼Miss Handai Contest 2015など、特別企画も開催します。詳細はhttp://machikanesai.com/をご覧ください。

最先端の物理を高校生に

◉ Saturday Afternoon Physics（SAP） 2015開催



宇宙から極微の世界までの「自然界」を探索する旅にいざないます。高校生のみなさん、是非ご参加ください！

【日　時】10月17日～11月21日
毎週土曜日（6週連続）
15:00～18:00
【場　所】大阪大学豊中キャンパス 理学部ほか
【対　象】高校生
【参加費】無料
【募集人数】180名（先着順）

申込み期限：9月24日（木）
※ただし、定員になり次第締め切ります。

▼参加申込方法・申込先など詳細は、http://www-yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/SAP/をご覧ください。

トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム

3期生に過去最多9名の阪大生が選ばれました

トビタテ！留学JAPAN
その経験が、未来の自信。

▲文部科学省での壮行会

2014年にスタートした学生の海外留学を支援する「官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～」の3期生に、過去最多の阪大生9名（男子5名、女子4名）が採用されました。8月4日、7名が平野俊夫総長と懇談し、日本代表として海外に飛び立つ阪大生たちは激励を受けました。

左から陣内さん、海沼さん、宋さん、松下さん、村上さん、久保さん、平井さん

自然科学系、複合・融合系人材コース

- 陣内寛大（基礎工学研究科システム創成専攻修士1年）
  ワシントン大学（米国）
  【抱負】現地では、心理学を専門とされている先生方と一緒にロボットの開発を行い、人間を豊かにするようなロボットを作ります。
- 中前佐和子（工学研究科地球総合工学専攻修士2年）
  パリ・ラヴィレット建築学校（フランス）
  【抱負】実際にフランスの文化に触れ建築を学ぶとともに、日本の伝統的な建築の魅力や文化を伝え、建築における多様な視点を養います。

新興国コース

- 海沼修平（法学部国際公共政策学科3年）
  フリーステート大学（南アフリカ/タンザニア）
  【抱負】現地での学修や生活を通して、開発・アフリカ・貧困ビジネスを肌感覚として学び、自分の価値観を変えます。

世界トップレベル大学等コース

- 宋 雨曌（法学部法学科4年）
  カリフォルニア大学バークレー校（米国）
  【抱負】シリコンバレーにある、カリフォルニア大学バークレー校への交換留学を通じて、グローバルな視野と起業家に不可欠な能力を身に付けたいです。
- 岡島大悟（外国語学部中国語専攻3年）
  北京大学（中国）
  【抱負】北京大学で国際関係学を学ぶとともに、環境活動を行い、日中の相互理解を深めます。人生を豊かにするトビタテに一歩踏み出します。
- 久保遼太（外国語学部ロシア語専攻3年）
  リーズ大学（英国）
  【抱負】国際関係学（開発学や平和構築、紛争問題など）を学ぶとともに、NGOで貧困下にある子どもたちの支援活動にあたります。

多様性人材コース

- 平井洸史（文学部人文学科4年）
  マンチェスター大学（英国）
  【抱負】ヨーロッパの考古学についての知識を深める予定です。この留学を、将来日本考古学の成果を国際発信できる人材になるための第一歩としたいと思います。
- 松下祥子（外国語学部スワヒリ語専攻3年）
  インターナショナルランゲージスクール・オブ・カナダ バンクーバー校（カナダ）
  【抱負】将来、日本を世界に誇れる観光立国にするため、英語力を身につけ、現地でのインターンシップを通して観光について学びます。
- 村上愛瑠（外国語学部ロシア語専攻3年）
  サンクトペテルブルク大学（ロシア）
  【抱負】「言語ではなく、文化や芸術やスポーツなどを通じた国際交流」をテーマに、英語圏でないロシアで日露の文化交流をします。

2021年オープン予定：都市型キャンパスを目指して

大阪大学箕面キャンパスを移転

6月17日（水）、大阪大学と箕面市は、大阪大学の教育研究の発展及び学習環境の向上と、箕面市の活気あるまちづくりを実現するため、箕面キャンパスを北大阪急行線延伸に伴い整備される「箕面船場駅（仮称）」東隣に移転することで、覚書を交換しました。

新キャンパスは、阪大のグローバル化を推進するための活動拠点となり、周辺の箕面市の施設とも共有・連携し、社会に開かれ、社会に貢献する大学を目指します。

新キャンパス周辺イメージ▶

環太平洋大学協会（APRU）第19回年次学長会議を開催

6月28日～30日、大阪大学の主催で、環太平洋大学協会（APRU）の第19回年次学長会議を開催し、加盟45大学のうち、25大学の学長と関係者106名が参加しました。

今回の年次学長会議では“University as an Agent for Global Transformation”（グローバルな変革の主体としての大学）をテーマに21世紀における大学のミッションを再考し、グローバルな変革の主体的な担い手としての大学の役割について議論しました。

■ 環太平洋大学協会（APRU）
環太平洋地域を代表する45大学の学長で構成され、各国・地域の高等教育の相互協力を強め、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題について教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として1997年に設立。

▲ウェルカムパーティーではアンドロイド（中央）も登場

北米同窓会をニューヨークで開催

7月25日（土）、北米同窓会（講演会・総会）をニューヨークで開催し、全米各地から、講演会には一般参加も含め約80名、総会には同窓生約40名が参加しました。

平野俊夫総長の開会挨拶のあと、石黒浩特別教授（基礎工学研究科）から「ロボットと未来社会」、山田吉彦博士（NIH 歯科・頭蓋顔面研究所 分子生物学チーフ）から「日米の研究制度と風土の比較及び将来への展望」と題した講演がありました。

講演会後の総会では、海外で活躍する卒業生、旧在籍者等を顕彰する「Global Alumni Fellow」の授与式が行われ、当日参加した6名に平野総長から称号記が手渡されました。

（写真・上）全米各地から集まった同窓生
（写真・下）Global Alumni Fellowの称号を授与された6名と平野総長

「大阪大学の集い in 東京」を開催します

師走の恒例行事「大阪大学の集い」を今年も開催します。

関東方面在住の卒業生・教職員OBの皆様、学生・教職員の皆さん、楽しい集いで一年を締めくくりましょう。

お連れ様とのご参加も大歓迎です。ご家族・ご友人お誘いあわせのうえ、是非お越しください。

【日　時】12月5日(土) 15:30～19:00
【場　所】学士会館(東京都千代田区神田錦町3-28)
◉講演会 15:30～ ●大阪大学総長による近況報告
●大阪大学同窓会連合会会長あいさつ
●石黒浩大阪大学特別教授講演
◉懇談会 17:20～ (会費：3,000円。学生以下は割引あり)
※当日は臨時託児室を設置します。
※申込方法などの詳細は、大阪大学HPでお知らせします。
【お問い合わせ先】卒業生室
TEL:06-6879-7196 E-mail:alumni-info@ml.office.osaka-u.ac.jp

▲昨年開催された「大阪大学の集い」

秋季卒業式・入学式を今年も挙行します

秋季卒業式・大学院学位記授与式及び入学式を行います。秋季入学式については、これまで各部局ごとに行われていましたが、阪大生としての一体感、帰属意識を高めるため、昨年度から大学全体で行っています。

秋季卒業式・大学院学位記授与式

【日　時】9月25日(金) 11:00～
【場　所】大阪大学コンベンションセンター3階MOホール

秋季入学式

【日　時】10月1日(木) 10:30～
【場　所】大阪大学コンベンションセンター3階MOホール
※すべて英語で行います。

アンドロイドじゃない方がしゃべります

「大阪大学特別教授」による講演会

最先端のロボット研究者として世界的に注目を集める石黒浩特別教授の講演会を開催します。

皆さまお誘い合わせのうえ、是非お越しください。

◀石黒特別教授(左)がモデルとなったアンドロイドの「ジェミノイド HI-2」(右)と

【日　時】10月5日(月) 18:00～19:30(開場時間17:30)
【講演者】石黒 浩 特別教授(基礎工学研究科)
【場　所】大阪大学会館 講堂(豊中キャンパス)
※吹田・箕面キャンパス及び東京オフィスにサテライト会場を設けます。
※申込不要・参加費無料・先着順
※詳細はhttp://osku.jp/c094をご覧ください。

演題 「学ぶことの意味とロボット研究 ―人間とは何か、心とは何か―」

ロボット研究開発は産業用ロボットの研究開発に始まり、近年では日常生活で活動するロボットの研究開発が盛んになりつつある。この日常生活で関わるロボットの研究において最も重要な課題が、インターラクション(人とロボットの関わり)である。石黒教授はこのインターラクションの研究に世界に先駆けて取り組んできた。本講演では、石黒教授が開発した様々なロボットを紹介しながら、人と関わるロボットの研究とは何か？そこから何が学べるかを議論する。

【お問合わせ先】未来戦略支援事務室総務係
TEL:06-6210-8244　Fax:06-6210-8241
E-mail:mirai-soumu@office.osaka-u.ac.jp

受賞・表彰

◉第13回産学官連携功労者表彰(内閣府)

文部科学大臣賞
関口清俊教授(蛋白質研究所)

環境大臣賞
村田正幸教授(情報科学研究科)
松岡茂登教授(サイバーメディアセンター)

◉大学発ベンチャー表彰2015(科学技術振興機構)

文部科学大臣賞
森勇介教授(工学研究科)

科学技術振興機構理事長賞
谷口正輝教授(産業科学研究所)

新エネルギー・産業技術総合開発機構理事長賞
塚原保徳特任准教授(常勤)(工学研究科)

■糸谷哲郎さんが「箕面市長表彰」を受けました

2014年12月に将棋のタイトル「竜王」を獲得した糸谷哲郎さん(文学研究科修士課程)が、7月16日、倉田哲郎箕面市長から表彰を受けました。阪大入学時から箕面市に住み、市民として竜王獲得の栄誉を表彰されたものです。

糸谷哲郎さん(左)と倉田哲郎箕面市長▶

「平成26年度土木学会論文賞」受賞
鎌田敏郎教授(工学研究科)

「日本演劇学会 河竹賞奨励賞」受賞
岡本淳子講師(言語文化研究科)

「7th International Conference on Green and Sustainable Chemistry and 4th JACI/GSC Symposium Poster Award」受賞
菊嶌孝太郎特任助教(常勤)(工学研究科)

陶磁器等の寄附に対して大阪市立東洋陶磁美術館から感謝状授与
林田雅至教授(コミュニケーションデザイン・センター)

「日本化学会 第95春季年会(2015) 学生講演賞」受賞
猪瀬朋子さん(理学研究科博士課程)
内田一幸さん(理学研究科博士課程)
村上真淑さん(理学研究科博士課程)
HEEJUNG Yoonさん(工学研究科博士課程)
衣田裕孝さん(工学研究科博士課程)
島 史明さん(工学研究科博士課程)
林由香里さん(工学研究科博士課程)
瀬戸浦健仁さん(基礎工学研究科博士課程)
長江春樹さん(基礎工学研究科博士課程)
Michael Lopezさん(基礎工学研究科博士課程)
福田幸太郎さん(基礎工学研究科博士課程)
KIM Sooyeonさん(産業科学研究所特別研究員(DC))

「日本化学会 第95春季年会(2015) 優秀講演賞(学術)」受賞
菊嶌孝太郎特任助教(常勤)(工学研究科)
ROCHAT Raphael特任助教(基礎工学研究科)
森本祐麻特任助教(未来戦略機構)
佐々木俊之さん(工学研究科特別研究員(PD))

Schedule ―― ◇セミナー等

●相続セミナーで疑問解消！
阪大卒の経験豊かな弁護士と税理士を講師に迎える「相続セミナー」を昨年に続き今年も実施します。今回は、内容もより実用的な講義とします。セミナーで学んで「争続」を「爽続」に。是非お気軽にご参加ください。
日　時：11月15日(日) 14：00～17：00
会　場：大阪大学中之島センター 講義室304
定　員：80名
参加費：無料
講　師：弁護士 上田 憲 氏(さくら法律事務所)
税理士 田中俊男 氏(田中会計事務所)
※どなたでも参加できます。
※申込み方法などの詳細は大阪大学HPでお知らせします。
問い合わせ先：卒業生室 セミナー担当 宛
TEL: 06-6879-7196　Fax: 06-6879-4337
E-mail: alumni-info@ml.office.osaka-u.ac.jp

●環太平洋大学協会(Association of Pacific Rim Universities) グローバルヘルスワークショップ
環太平洋の大学の研究者・学生・行政関係者等が一堂に集まり、グローバルヘルスに関する教育研究の現状と課題について議論し、教育研究活動の提携の強化や国際共同研究の発展へとつなげることを目的としたワークショップです。
日　程：10月30日(金)～11月1日(日)
会　場：大阪大学吹田キャンパス最先端医療イノベーションセンター棟、銀杏会館
参加費：無料
参加申込方法：APRUグローバルヘルスワークショップHP (http://apruglobalhealth.org/register)から
問い合わせ先：医学系研究科公衆衛生学教室教務担当
E-mail: gkyomu@pbhel.med.osaka-u.ac.jp

▶ 大阪大学では、この他にも一般向けの催しを多く開催しております。
詳しくは大阪大学ホームページのセミナー／シンポジウム情報をご覧ください。
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/seminar 阪大セミナーシンポ 検索

◉「大阪大学ニューズレター 2011-2015」を作成

2015年8月25日で退任した平野俊夫総長の在任中の出来事、取り組みをまとめた公式記録、大阪大学ニューズレター 2011－2015「大阪大学第17代総長　平野俊夫の4年間」と「大阪大学創立100周年『世界適塾』構想会議提言書」を作成しました。2011年8月の総長就任以降、教育研究の発展と大学改革の推進に精力的に取り組んだ足跡と、平野総長がめざした「世界適塾」構想などを紹介しています。大阪大学ニューズレター 2011－2015は、大阪大学ホームページにも掲載しています。

大阪大学ホームページ　http://osku.jp/s054

大阪大学
未来基金

ご寄付いただいた皆さまへ

大阪大学未来基金へのご寄付に対しまして、心よりお礼申し上げます。
ご寄付いただきました皆さま方への感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。
引き続き、大阪大学の未来に向けたご支援をよろしくお願い申し上げます。

2015年9月
大阪大学 総長　西尾 章治郎

▼2015年5月～2015年7月ご寄付分を掲載　＜寄付実績＞3,446,243,124円／13,840件(2015.7.31時点)

◉個人寄付者ご芳名（敬称略・五十音順）453名

うち掲載を希望されない方 102名

青木　章
青山　茂
赤坂　政利
赤澤　俊徳
明石　大
秋吉　秀樹
浅井　幸恵
朝倉　敏夫
浅野　恒平
阿部　眞人
天部　健
新木　一成
伊井　康高
飯村　航汰
井川　富夫
池田　紀夫
石井　寛
石神　正浩
石崎　順
石田　典孝
石橋　直志
石村　昭彦
伊丹　惣三
伊藤　桂祐
井上　肇
井上　稔
今井　雅則
今岡　千治
岩﨑　省吾
岩竹　清史
岩谷　邦夫
岩橋　哲哉
岩見　洋一
岩本　英司
上久保喜代治
植田　邦男
上田　憲夫
上野　宇顕
植野　三枝
内田　浩史
浦田　厚生
江口　太郎
遠藤　正人
大石　富彦
大内　幹雄
大河　敦
大杉　孝之
大田　哲也
大田　浩司
大高　一博
大髙　保英
大塚　芳政
大野　一幸
大橋　花帆
大橋　空
大橋　浩
大原　秀一
大東　毅
大政　啓子
大家　正久
大薮　貞利
岡田　智
尾形　聡実
岡田　弘
岡本　髙宏
岡山　欣彦
小川　和宏
奥田武治郎
奥村　安史
小野　敦
小野荘太郎
小野　雅裕
折田　義正
海邊　修司
鍵岡　琢実
蔭山　潔
柏原　正和
柏木　公一
勝　一弘
金田　宏
金子　茂男
金子　俊六
神谷　和裕
川井　実
川上　浩邦
川上　良介
川田　勝弘
川邉　允志
川部慎一郎
閑念　利政
神戸　義基
菊池　謙三
木田　英之
北市　稔
北側　彰一
北川　裕康
北虎　理恵
北山　繁
橘高　康人
衣笠　隆之
木下　昭
木下　和彦
木原　幹雄
木村　厚史
木村　友美
木村　浩人
木村　正治
木村　公之
久島　文和
口野　繁
久保　雅義
熊田　亮順
栗原　晶子
黒川暢一郎
黒田　英之
桑原　駿介
桑原　章次
鍬開　雄二
小池　健生
河野　静穂
河本　凱地
国分　脩治
小島　克雄
小副川　徹
児玉　英司
狐塚　浩美
小橋　慶三
小林　敬和
小林　利光
小林　正和
小林　義和
神宅　英紀
小若　雅彦
櫂田　俊一
近藤　誠史
近藤　俊雄
西光　幸子
佐伯　正
酒井　昭義
坂井　一守
酒井　京子
坂本　忠志
崎本　博史
笹川　晴光
佐々木　浩
佐々田公子
佐藤　寛
佐藤　康司
澤田　富男
三宮　和彦
塩谷　京子
塩谷　俊男
重光　世洋
澁谷　省吾
嶋田　優
島林　勝夫
嶋谷　薫
清水　厚延
清水　益雄
白杉　祥二
鈴木　淳彦
鈴木　宏彰
鈴永　吉美
瀬藤　祐
園部　一憲
園部　直子
園部　宏和
染井　雅次
多賀　一郎
髙島　伸哉
高田　悦久
高野　和夫
高野　浩二
髙橋　康平
高原　完祐
髙松三七子
M.T(C53)
瀧　成和
田口　和夫
竹野内勝次
忠垣憲次郎
橘　英三郎
橘　浩史
田中　公男
田中　均一
田中　眞人
谷口　秀昭
田村　俊和
塚田　治樹
塚谷　敏之
辻川　孝夫
津田　守正
椿　隆一
津村　勇次
出口　一郎
寺田　均
東郷　武
鳥羽規予子
冨永　健司
戸谷　弘之
豊田　尚紀
仲　厚吉
中井　志郎
永井利三郎
中江美也子
中尾　光博
中川　杉美
中島　健次
中務　利信
中西　朗
長野　敏郎
中野　守
中原　巌
中村　昭代
中村　公弘
中村　弘一
中村　康一
夏梅　隆至
名富　潤
二井谷康孝
二川　清
西井　良一
西川　貴規
西川　仁史
西澤　泰彦
西澤　嘉康
西村　知志
新田　保次
野田　哲貴
野田　良太
野々村千里
野本　裕美
橋本　和典
橋本　健司
蓮池　隆司
蓮輪　賢治
長谷川　哲
長谷川　晃
長谷川　保
波多野真樹
服部　建一
速水　翔
原　敬太郎
原　幸輝
原田　明法
東　志治
東　亮吾
東野　正孝
東間　正人
足田　敏也
樋口　孝
檜山　正則
平井　宏和
平岡　邦夫
平岡　正充
平木　徹郎
平山　敬浩
広瀬　広一
廣瀬　宗孝
福田　雅文
福田　学
福田　悠人
藤川　紫音
藤田　瑞都
藤道　宗人
藤本　竹登
藤本　洋
藤本　芳明
藤原　裕之
古川　惠子
古川　博一
別府　昭信
堀　雅彦
本田　光徳
本間　徹
前田　聖子
前田　雅彦
桝田　浩司
桝田　実花
増永　富子
松浦　壽彦
松蔭　茂男
松坂大太郎
松田　義孝
松本　和子
松本光一郎
真鍋　益男
三浦　健也
三木　諒吉
三澤　孝史
三嶋　英俊
水垣　翼
水口　鉄志
水野　達也
水野梨華子
溝口　正
三田真志郎
三石　晃
見通　清司
南　未穂
宮田幸四郎
宮田　正弘
向井　孝弘
向川　了
宗森　弘美
村岡　治道
室谷　弥生
望月　茂弘
森　和治
森　渉
森岡　成行
森川　隆
森田　健資
森本　智史
森脇　敏雄
八木　雅三
安田　孝
安光　勉
保元　大輔
柳内　義幸
薮下　直人
山内　秀介
山内　弘志
山縣　延文
山上義太郎
山口　恵美
山崎　圭治
山﨑　悟
山﨑ちどり
山﨑　靖男
山田　道生
山田由美子
山中　一浩
山中　正広
山本　明彦
山本　昇五
山本　清司
山本裕美子
湯浅　英雄
横井　弘昌
横田　隆
吉岡　成和
吉田　進
芳田　利春
吉田　勝
吉田　六男
吉田　玲晛
吉村　律三
若林　東人
渡邊　光俊
渡部久仁雄

◉教職員寄付者ご芳名（敬称略・五十音順）30名

うち掲載を希望されない方 6名

青島　貞人
足立　博行
我妻　竜三
岩谷　好和
上田　昌宏
大木　高仁
大倉　一郎
小川　哲生
生越　専介
片山　光浩
紀ノ岡正博
佐藤　尚弘
篠原　厚
田井久美子
床谷　文雄
中野　貴志
中野　元裕
花垣　和則
平野　俊夫
松浦　友亮
森　雅志
山中　秀介
山中　卓
山根　聡

◉法人寄付ご芳名（敬称略・五十音順）12団体

うち掲載を希望されない団体 1団体

医療法人 上野厚生会
医療法人 恵希会 さかもと医院
学校法人 大阪青山学園
株式会社 美貴本
株式会社 朝日新聞出版
株式会社 空間デザイン
株式会社 ポッカクリエイト
株式会社 よみうり文化センター
住友化学株式会社
中嶋米穀株式会社
日本ケロッグ合同会社

大阪大学未来基金のご案内

個人の皆さまへ

【ご寄付の方法】 ゆうちょ銀行・金融機関からのお振込、クレジットカードでのお引き落としをご利用いただけます。また、毎年1回定額を自動引き落としでご利用いただくことができます。
【税法上の優遇措置】 所得税控除等を受けることができます。

法人の皆さまへ

【ご寄付の方法】 専用の申込書がございますので、お手数ですが、涉外本部未来基金事務局までご連絡をお願いいたします。
【税法上の優遇措置】 寄付金の全額を損金に算入できます。

【ホームページは 大阪大学未来基金 で 検索 www.miraikikin.osaka-u.ac.jp】

未来基金についてのお問い合わせは、大阪大学涉外本部未来基金事務局までご連絡をお願いいたします。
【大阪大学涉外本部未来基金事務局】 TEL:06-6879-8327　FAX:06-6879-4337　e-mail:kikin@office.osaka-u.ac.jp

＜注目の新スタジアム完成間近＞
サッカーJ1リーグで、昨季、国内主要タイトル3冠に輝いたガンバ大阪。10月には新しいサッカー専用スタジアムが完成する。建設中のスタジアムのすぐ近くにある大阪大学とガンバ大阪は、昨年、研究や医学、スポーツの発展を目指して相互協力するフレンドシップ協定を結んだ。「知の集積」拠点の大学と名門サッカーチームが地域連携の強化を図るなか、情報科学研究科修士課程2年の四條能伸さんと経済学部3年の笹田智樹さんが、新スタジアムにガンバ大阪を訪ねた。

▲広い練習用コートの奥には、既に外観が完成した新スタジアムがそびえる（左から)笹田さん、野呂社長、ガンバ大阪事業本部の伊藤慎次副本部長、四條さん

●ピッチと客席 目と鼻の先 新スタジアム かつてない迫力に

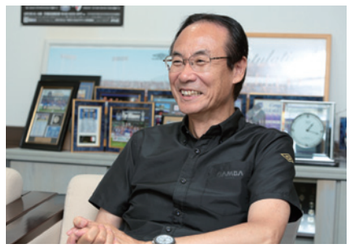
4万人収容の新スタジアムは、大阪モノレールの万博記念公園駅から徒歩約15分。隣接地には、今秋開業予定の大型複合施設「EXPOCITY(エキスポシティ)」がある。四條さんと笹田さんが訪れた日は、外観はほぼ完成し内部も仕上げ段階。スタジアム内に案内された2人は「すごい」と感嘆の声を上げた。「建設費140億円のうち法人と個人の寄付が約105億円、残りは助成金で賄いました。観客席はタッチラインから7メートル、ゴール裏から10メートル。FIFA(国際サッカー連盟)の基準で『これ以上は無理』というところまで近づけた。国内のどのスタジアムよりも近い」と話す野呂輝久社長。笹田さんは「ピッチの目と鼻の先に客席があって驚いた」と興奮気味。観客席の高さも1.5メートル。欧州では高さが約3メートル、ピッチとの間に溝があったりするが、この新スタジアムではかつてない迫力満点の試合観戦ができる。さらにソーラーパネルなど最先端技術も取り込まれている。

▲建設中のスタジアムは大迫力。今にも歓声が聞こえてきそう

●「地域の健康ステーション」にも

新スタジアムは、完成後、吹田市に寄贈され、ガンバ大阪が指定管理者として運営する。野呂社長は「新スタジアムのコンセプトはJリーグや国際試合の開催、地域のスポーツ・防災の拠点であることに加え、健康です」と話す。「万博公園の外周道路をジョギングしている人が多いように、健康への関心は高い。新スタジアムにはトイレもシャワーもあるので、試合のない日は開放できます。さらに阪大病院を含む近辺の医療機関の支援を得て、市民の診療もできないかと考えています。いわば地域の健康ステーションです」と構想は膨らむ。大阪大学はすでに、スタッフやサポーター・ファンへの熱中症対策やアカデミー選手への歯のケアなど医学・歯学面で協力しているほか、映像の情報・通信環境など様々な分野で支えている。

学生たちにも「どんどん試合を見に来て」と呼びかける野呂社長。「キャンパスの一部だと思ってもらえたら。キャンパスの端っこに行ったら本物のスタジアムがある、みたいにね」と笑った。



▲「地域の人が3世代でふらっと遊びに来れる、地域密着のスタジアムにしたい」と野呂社長

■株式会社ガンバ大阪
（大阪府吹田市千里万博公園3の3）
1993年のJリーグ開幕時より加盟。2005年に初めてJ1リーグ優勝を果たし、08年にはアジアチャンピオンズリーグ(ACL)制覇、14年には国内3冠(J1リーグ、天皇杯、ナビスコカップ)を達成した。日本代表選手も多く輩出するJリーグを代表する強豪クラブ。